

2018 年度  
豊岡市政策モニタリング調査  
報告書

2018 年 7 月

豊岡市 政策調整課



# 2018年度 豊岡市政策モニタリング調査 報告書

## < 目 次 >

1	調査概要	1
2	調査結果	
2.0	回答者の属性	2
2.1	安全・安心のまち	7
2.2	健康長寿のまち	11
2.3	環境に優しいまち	15
2.4	おもてなし観光のまち	19
2.5	交通の便利なまち	22
2.6	子育てに優しいまち	28
2.7	エコ農業のまち	31
2.8	住みたいと思うまち	35
3	統計基礎用語解説	37
4	調査票	38

# 1. 調査概要

## 1 調査報告書作成の目的

本調査報告書は、豊岡市の行政評価で用いている戦略体系図の改善に寄与し、施策の成果を最大化させることを目的としている。

今年度から豊岡市基本構想及び市政経営方針の下で戦略的政策評価を開始している。したがって、今回の調査報告書は過去5年間の総括を行うため、経年変化を中心にした分析を実施した。また、今年度の報告においては図を多く用いた表現を行うことによって、直感的に成果と課題が把握できるよう試みた。

また、昨年度と同様に今年度も積極的な考察を試みた。施策担当課では本考察と異なった議論も予想され、市民ワークショップではさらに多様な議論がなされるであろう。しかし、そのような多様性の中からこそ、成果を上げるための改善の視点が生まれるものと考えられる。本調査報告書は、そのための契機として活用されることを期待するものである。

## 2 調査の経緯

豊岡市では、2013年度から新たな行政評価の取組みとして「協働型プログラム評価（豊岡市では「戦略的政策評価」と呼称）」を導入した。そして、その評価活動の一環として、2014年度から「政策モニタリング調査」を実施し、次の8つの重点施策の進捗状況をモニタリングしてきた。

- ① 安全・安心のまち
- ② 健康長寿のまち
- ③ 環境に優しいまち
- ④ おもてなし観光のまち
- ⑤ 交通の便利なまち
- ⑥ 子育てに優しいまち
- ⑦ エコ農業のまち
- ⑧ 住みたいと思うまち

## 3 調査内容

### (1) 実施概要

本調査の実施概要は次表に示すとおりである。

#### ■ モニタリング調査の実施概要

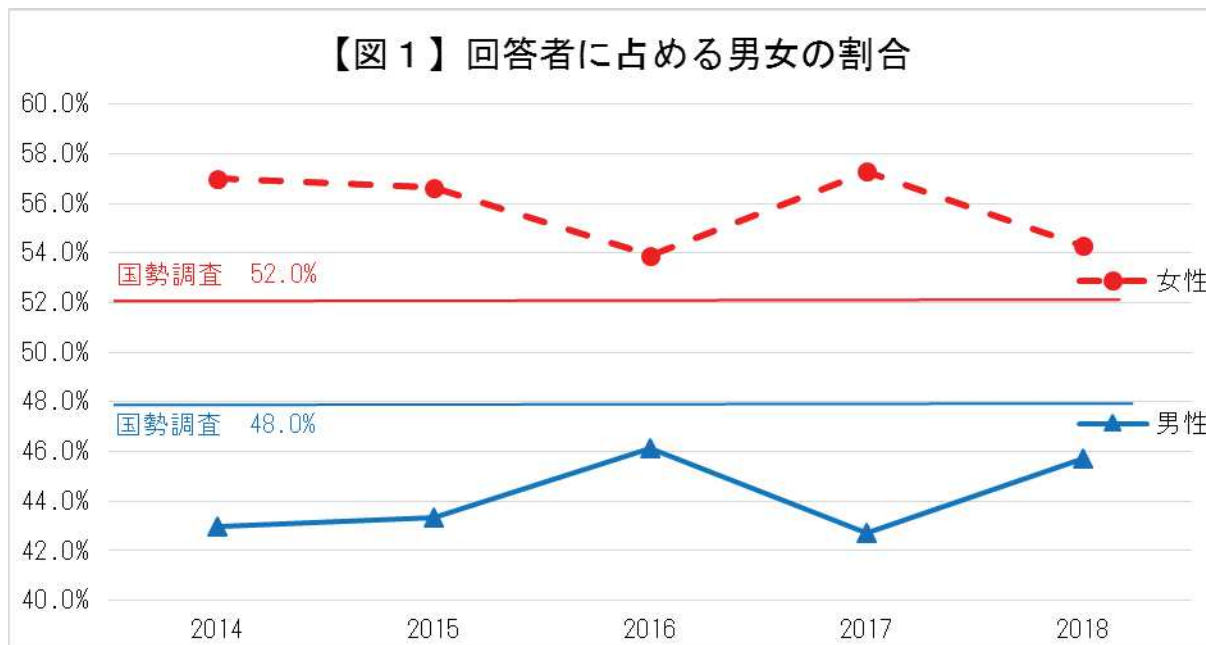
区分	摘要
調査対象	市内在住の方から18歳以上の3,000人を無作為抽出
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査日	平成30年4月20日～5月21日（5月21日受付分までを有効票とした）
配布数/回収数	3,000票/1,349票（回収率45.0%）
実施主体	豊岡市 ・担当：政策調整部政策調整課 行政改革係 ・電話：0796-21-9022

### (2) 集計及び分析

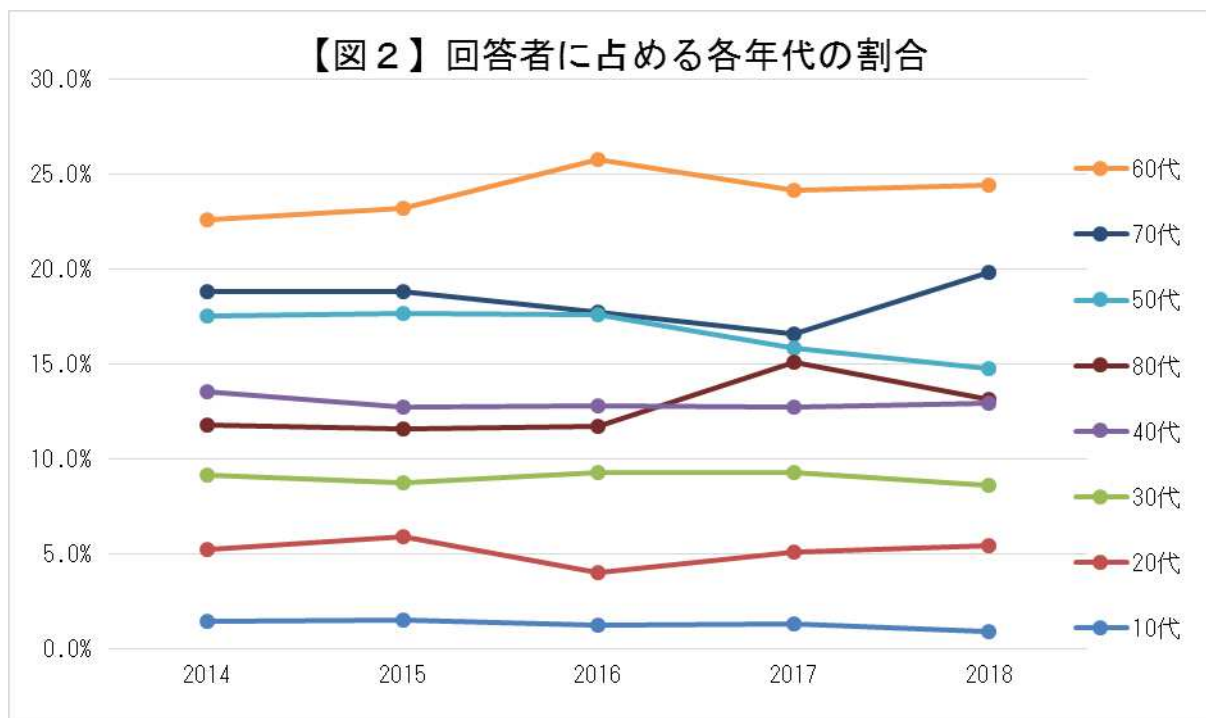
- ・集計及び分析は、「無回答」を除いた有効回答を対象に算出している。
- ・集計結果は小数点第2位を四捨五入しており、表示の比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・通年の比較を行うためデータクリーニングを行った結果、過去の集計結果と誤差が生じている。
- ・本分析の中では10代と20代を「若年層」、30代～60代を「壮年層」及び70代と80代を「老年層」としている。

## 2.0 回答者の属性

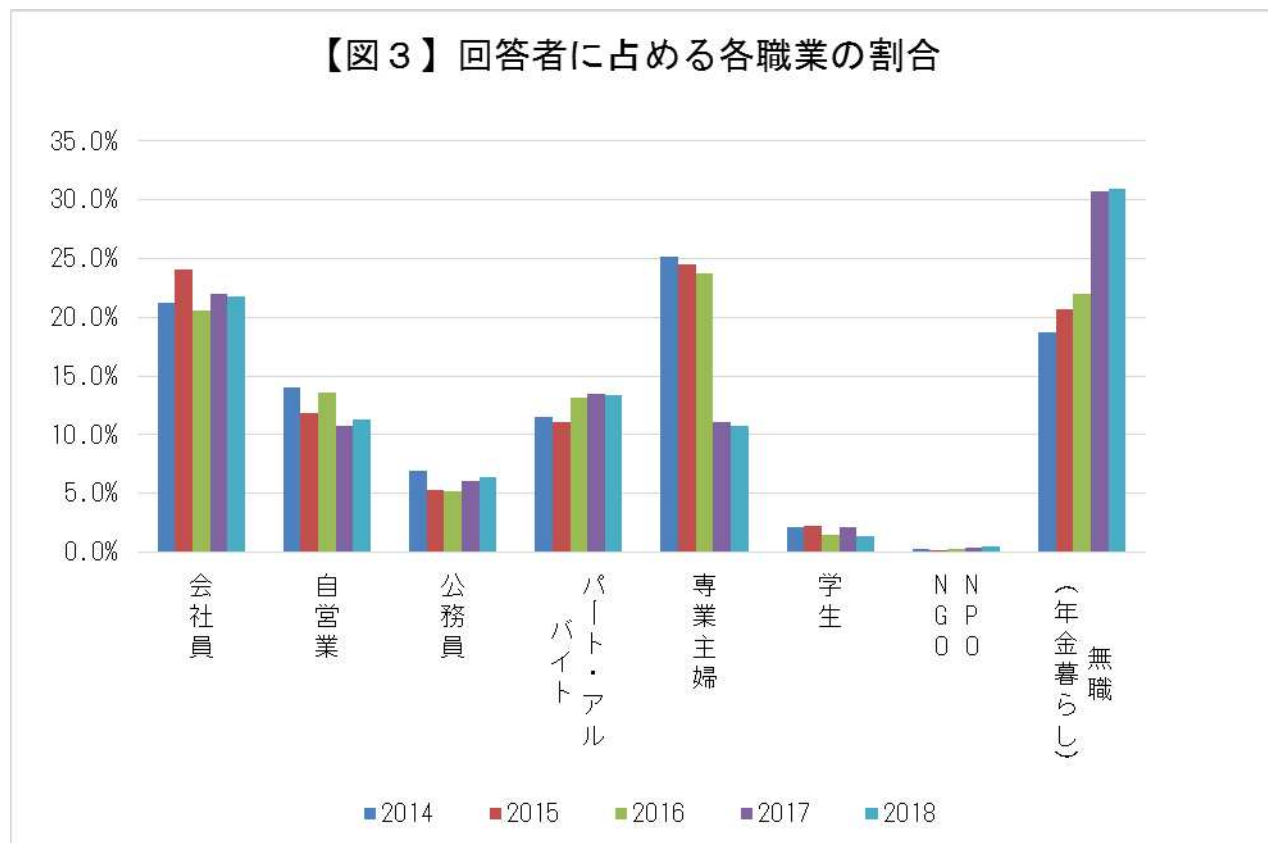
回答者の男女の割合の経年変化は【図1】のとおりである。5年間の平均は、男性44.2%、女性55.8%である。平成27年の国勢調査の豊岡市における人口構成比（男性48%、女性52%）と比べると、女性の回答者の割合は実際の人口割合を常に上回り、男性は常に下回っていたことが分かる。



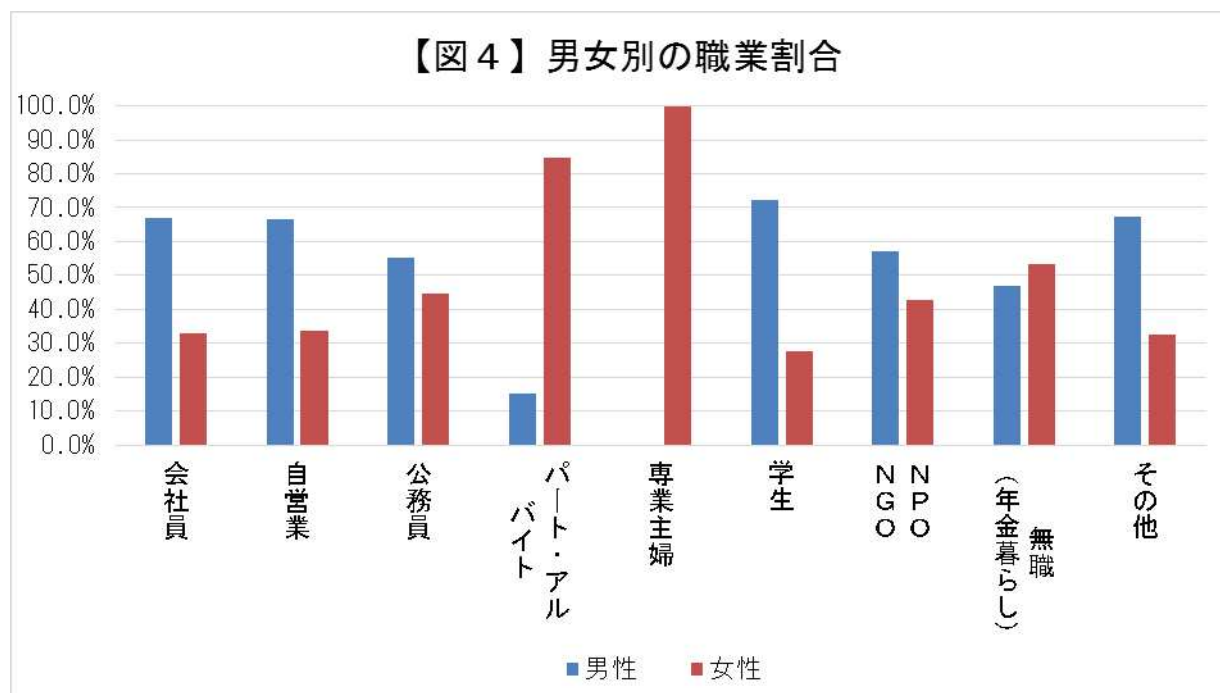
回答者の年齢割合の経年変化は【図2】のとおりである。年度と年代に正の相関関係があり年度が経過するにつれて、回答者の年代が緩やかに上昇する傾向がみられる（ $r=0.03$ 、 $p<0.05$ ）。2018年度は70代の割合が増加し80代の割合が減少している。なお、10代が占める割合が大幅に低いのは、調査対象を18歳以上に設定していることの影響である。



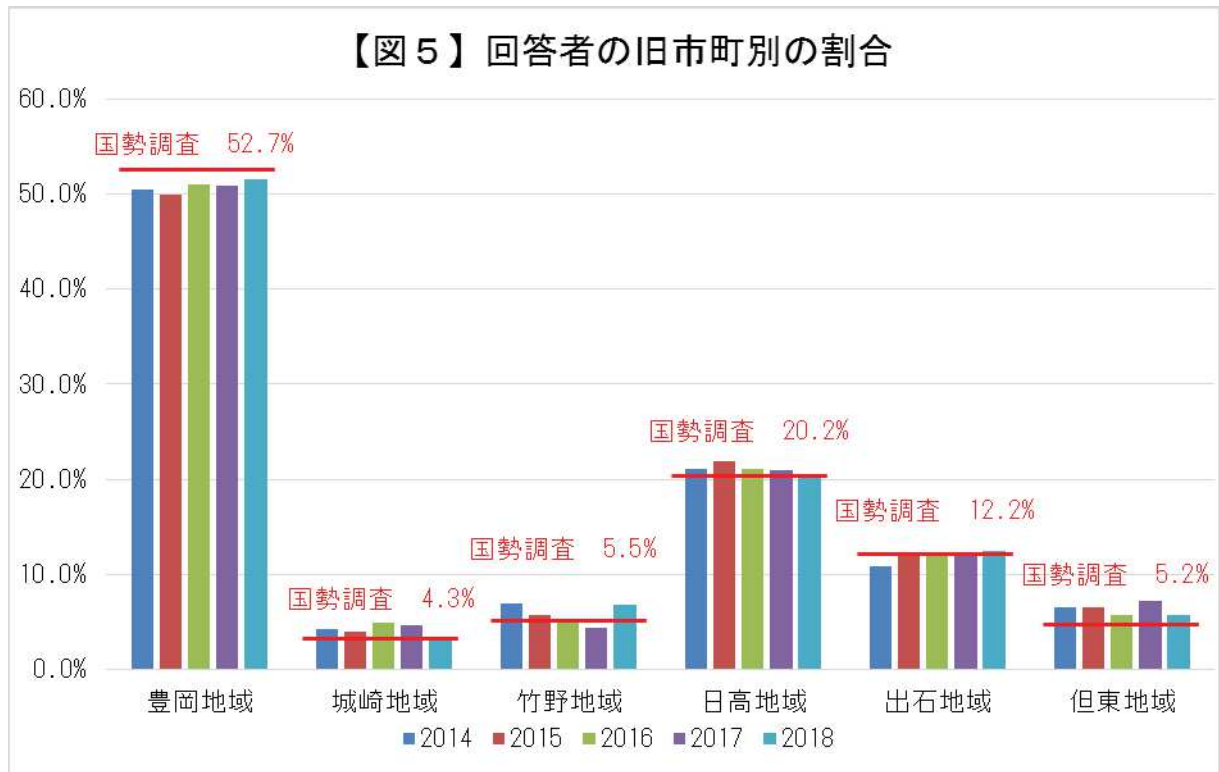
回答者に占める各職業の割合の経年変化は【図3】のとおりである。2017年度の調査以降に「無職（年金暮らし）」の選択肢を新設した結果、それまでその他に分類されていた「無職（年金暮らし）」と思われる回答者の多くがこの選択肢を選んだと思われる。その結果、この選択肢の回答者が最も多くなった。今後もこの回答者が減少する見込みはないため、この選択肢は来年度以降の調査においても必要であると考えられる。その他の各職業の割合に大きな変化はない。



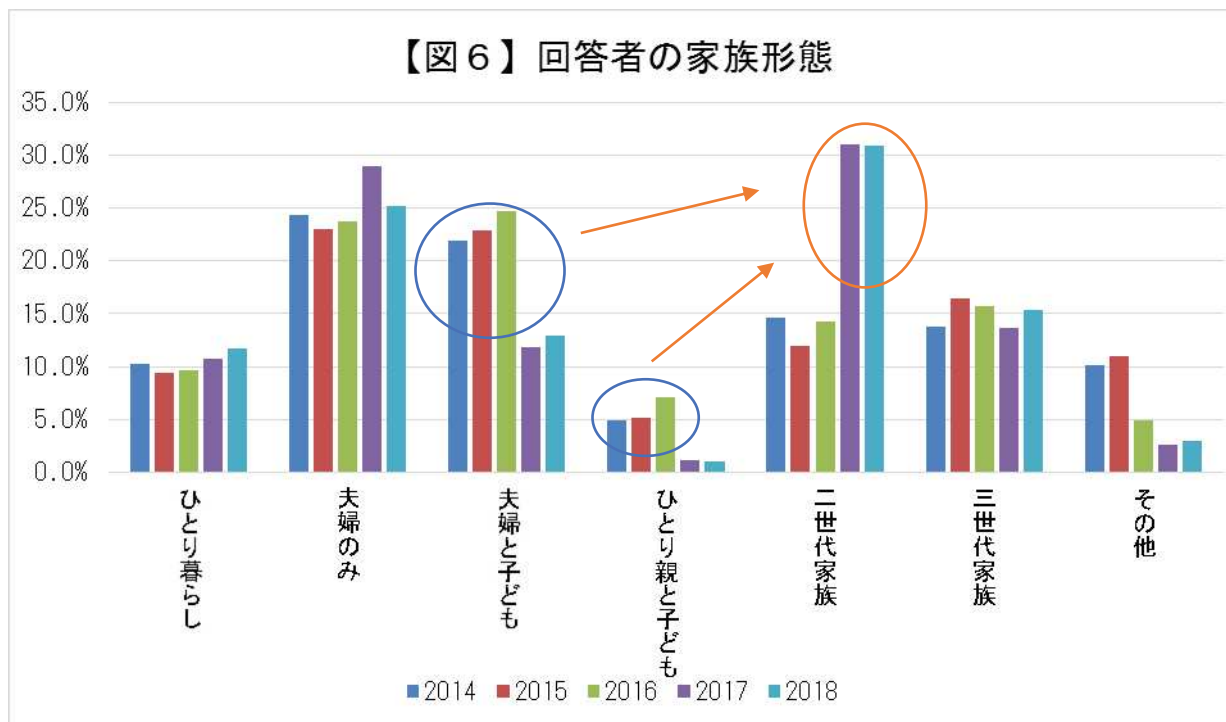
なお、男女別にみた場合、女性回答者のフルタイムで働いている割合は、男性回答者よりも大幅に低い。



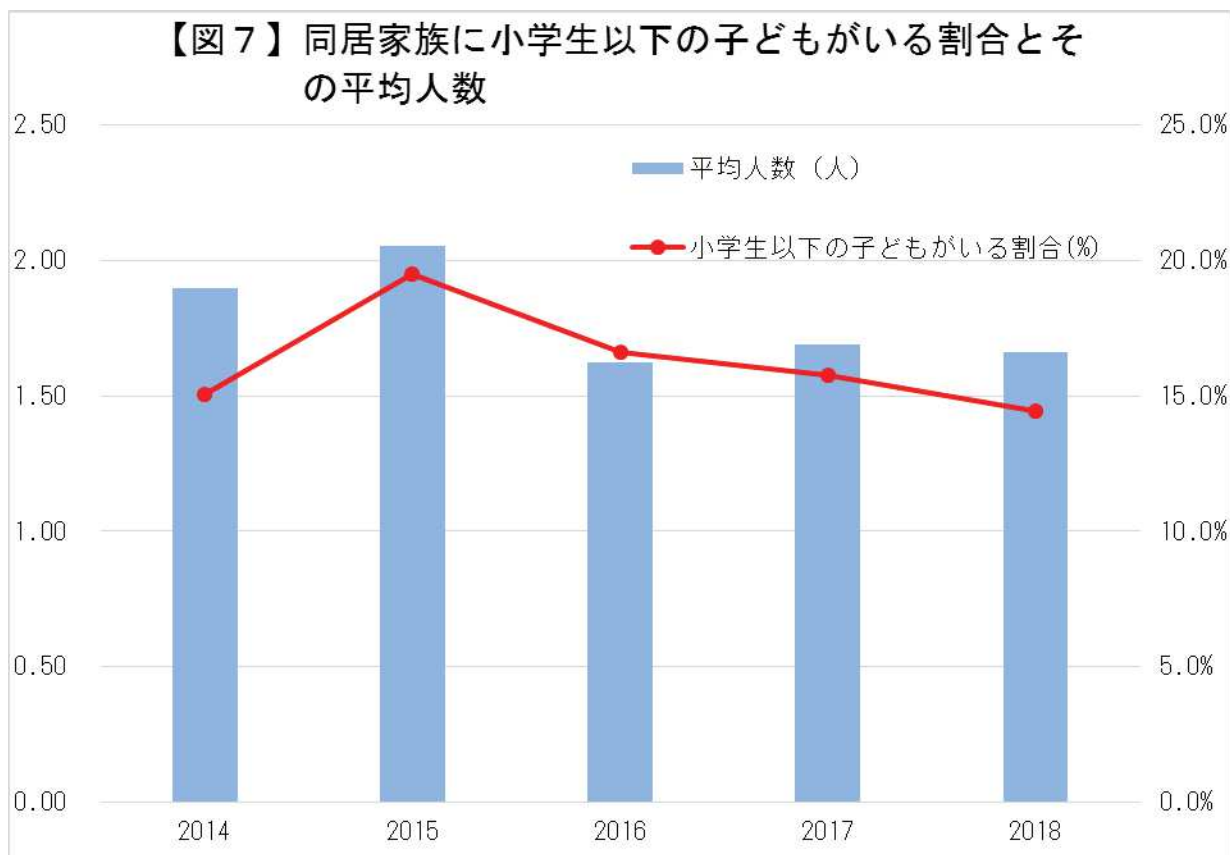
回答者が住んでいる旧市町別の割合は【図5】のとおりである。また、平成27年国勢調査による豊岡市の人口割合に比べると、豊岡地域以外は概ね国勢調査の人口割合を超えていたことが分かる。



回答者の家族形態の経年変化は【図6】のとおりである。2017年度に選択肢の変更等を行ったため、2世代家族の割合が増加している。選択肢に含まれる言葉「未成年」の選択肢について、回答者の混乱があると思われるため、今後の調査においては、選択肢に使う言葉を検討することが必要である。また、選択肢に使う言葉を決定した後は、一定期間選択肢の変更を行わないことが必要であると思われる。



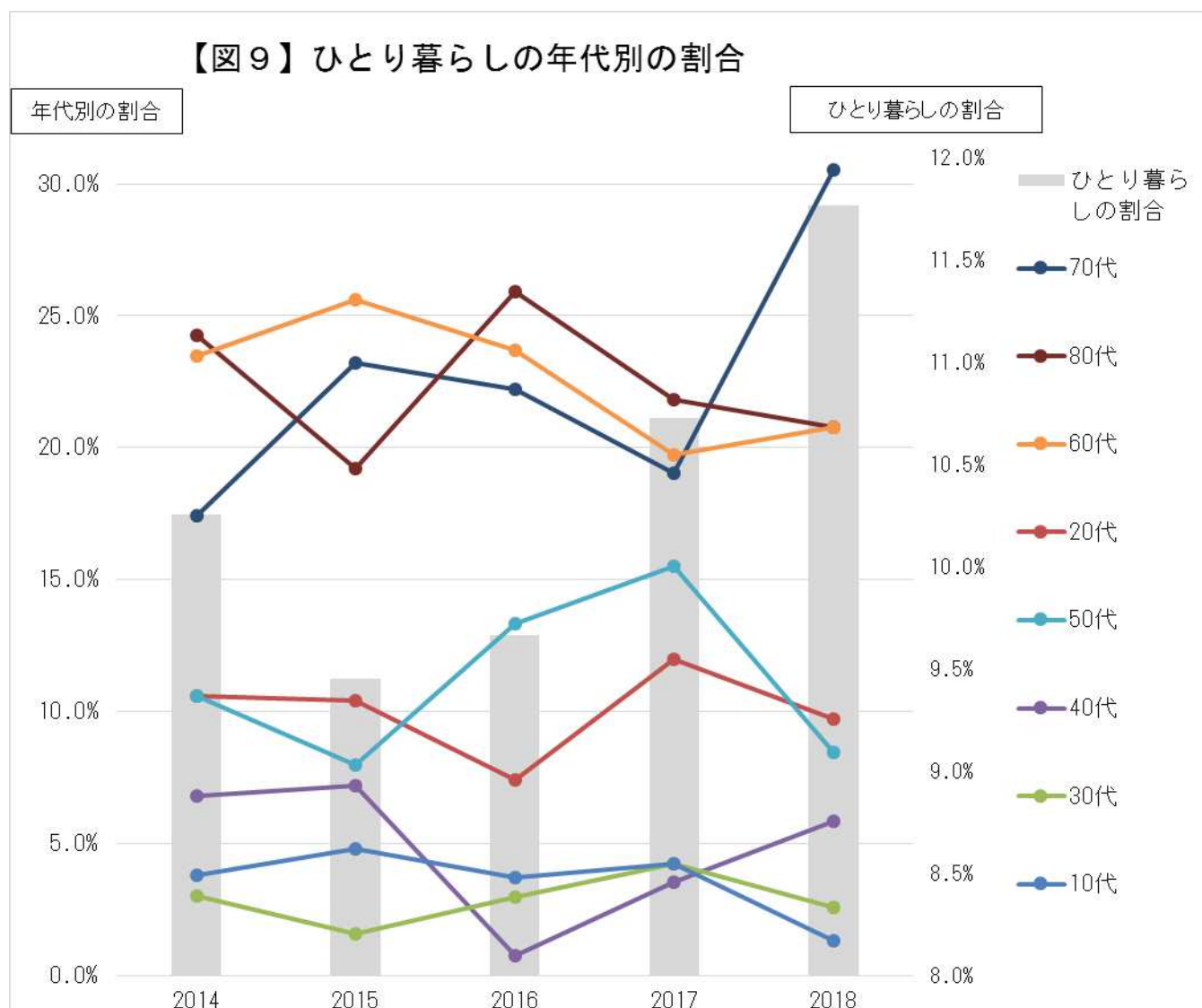
同居家族に小学生以下の子どもがいる割合及びその平均人数の経年変化は【図7】のとおりである。モニタリング期間全体をみた場合、年度と子どもの人数については負の相関があるため（ $r=-0.12$ 、 $p<0.01$ ）、小学生以下の子どもの数は減少傾向にあると言える。ただし、2016年度以降については、平均人数及び割合はともにほぼ横ばいである。



「三世代家族」と「夫婦と子ども」の世帯における小学生以下の子ども平均人数の経年変化は【図8】のとおりである。三世代家族の方が人数は多い傾向がある。ただし、その差は減少し今年度は同値であったため、今後注視する必要があると思われる。



ひとり暮らしを選択した回答者の年代別の割合の経年変化は【図9】のとおりである。ひとり暮らしであると回答した人の6割～7割は60歳以上である。また全回答者に占めるひとり暮らし世帯の割合も年々上昇傾向にあるため、高齢者のひとり暮らし世帯が今後も増加すると思われる。

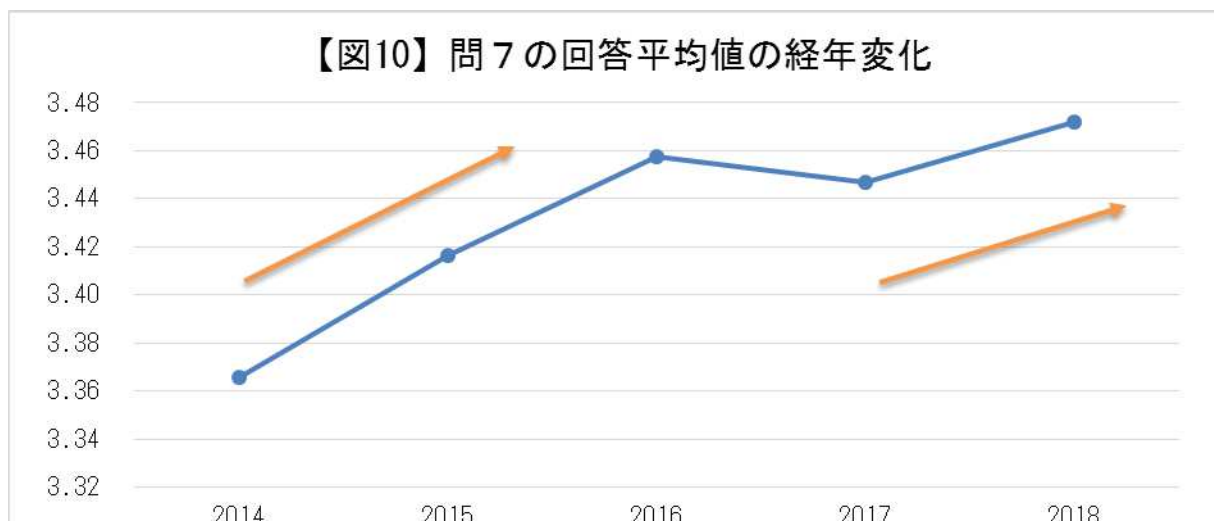




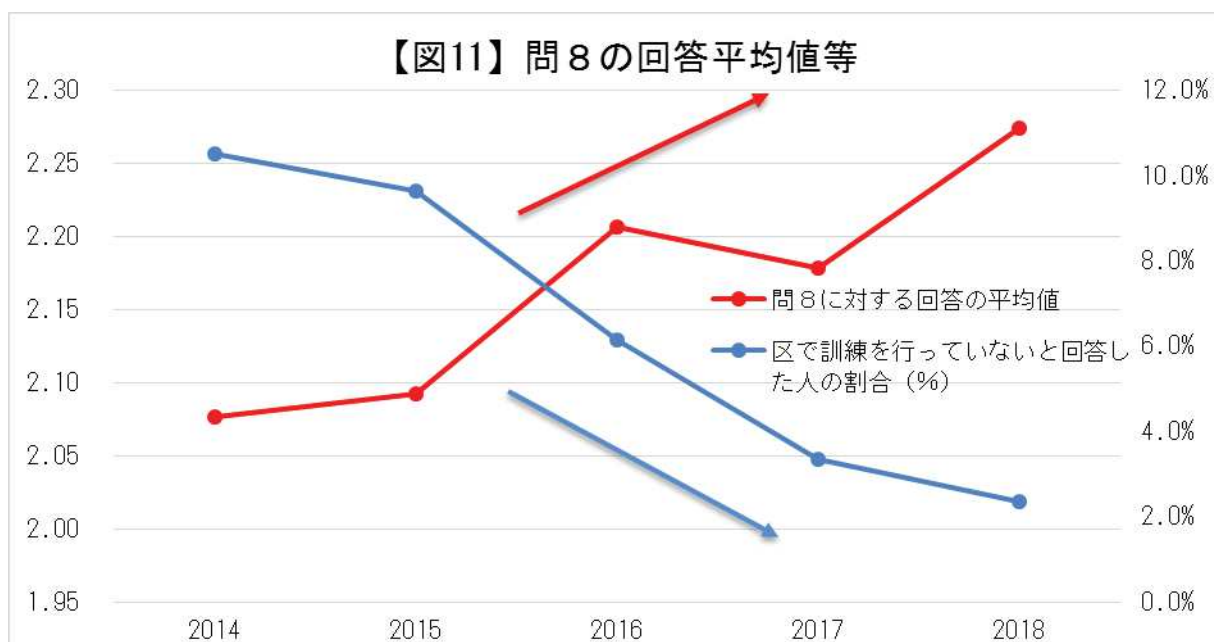
## 2.1 「安全・安心のまち」

問7	あなたの区では、災害時、被害を軽減するために「住民同士の助け合い行動ができる」と思いますか？
問8	あなたは市や区で開催される防災訓練に参加したことがありますか？
問9	あなたは災害に備えて次のことを実践していますか？（複数回答可）

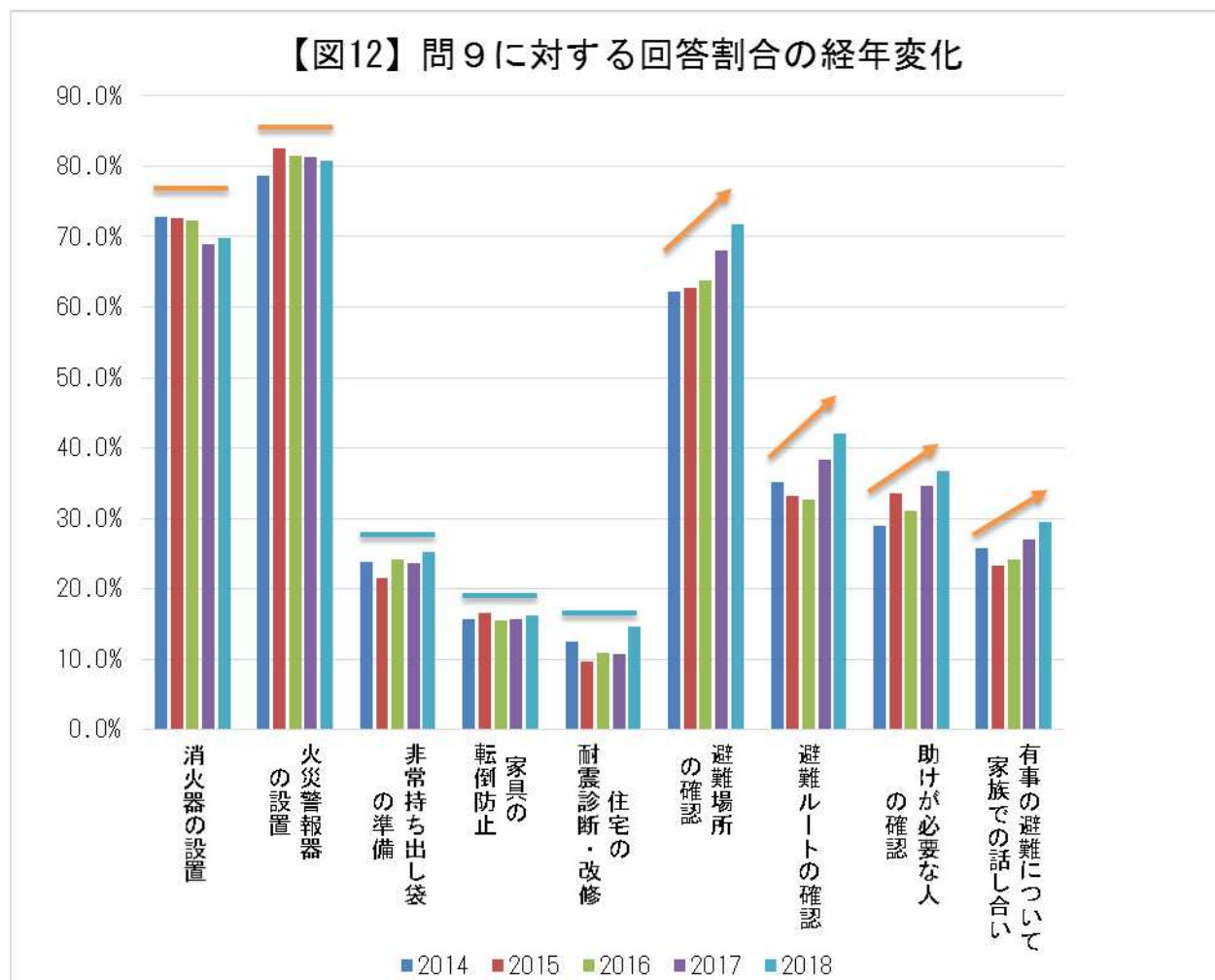
問7に対する回答の平均値の経年変化は【図10】のとおりである。t検定の結果から、2014年度と2018年度と回答値には統計的に有意な差があり（ $t=3.34$ 、 $p<0.01$ ）、年度と回答値にも正の相関関係があるため（ $r=0.04$ 、 $p<0.01$ ）、住民の助け合い意識は着実に向上してきたと言える。



問8に対する回答の平均値の経年変化は【図11】における赤色の折れ線のとおりである。t検定の結果から、2014年度と2018年度は統計的に有意な差があり（ $t=4.61$ 、 $p<0.01$ ）、年度と回答値にも正の相関関係があるため（ $r=0.11$ 、 $p<0.01$ ）、住民の助け合い意識は着実に向上してきたと言える。また、区で訓練を行っていないと回答した人の割合は青色の折れ線のとおり減少しており、防災訓練を実施する地区が増加し、なおかつ訓練の実施を地域住民に周知できた結果、区で訓練を行っていないと回答した人の割合が減少してきたものと推測できる。



問9に対し、各選択肢を選んだ人の割合の経年変化は【図12】のとおりである。「最寄りの避難場所を確認している」、「避難ルートを確認している」、「有事の際、助けが必要な近所の人是否存在を認識している」及び「有事の際の避難行動について、家族と話し合っている」については、「はい」と回答した人の割合には上昇傾向がみられ、市民総参加訓練の成果ではないかと思われる。ただし、消火器と火災警報器の設置については、高止まりしていると言え、「非常用持ち出し袋を準備している」、「家具の転倒防止を施している」及び「住宅の耐震診断や耐震改修を行っている」については上昇がみられない。



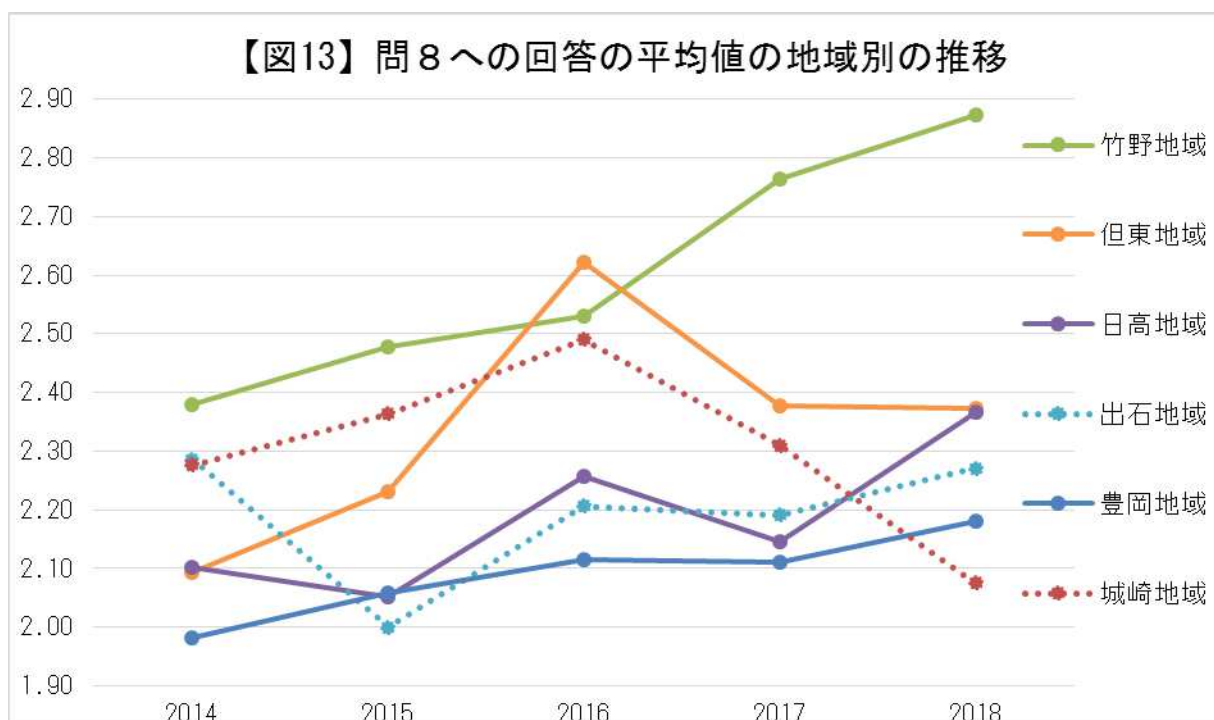
今後の改善方針について示唆を得るため、問8において区で訓練を行っていないと回答した人の地域別人数の年度別の経年変化を【表1】に示した。どの地域も回答者は大幅に減少しているが、一部の地域で増加又は減少傾向の鈍化がみられる。実際に区で訓練が行われていないのか、周知不足なのかなどについて、行政データ等と合わせて議論をする必要があると思われる。なお、【表1】の合計欄をグラフに表示したものが【図11】の青色の折れ線であり、減少していることが分かる。

【表1】区で訓練を実施していないと回答した人の地域別のクロス表（年度別）

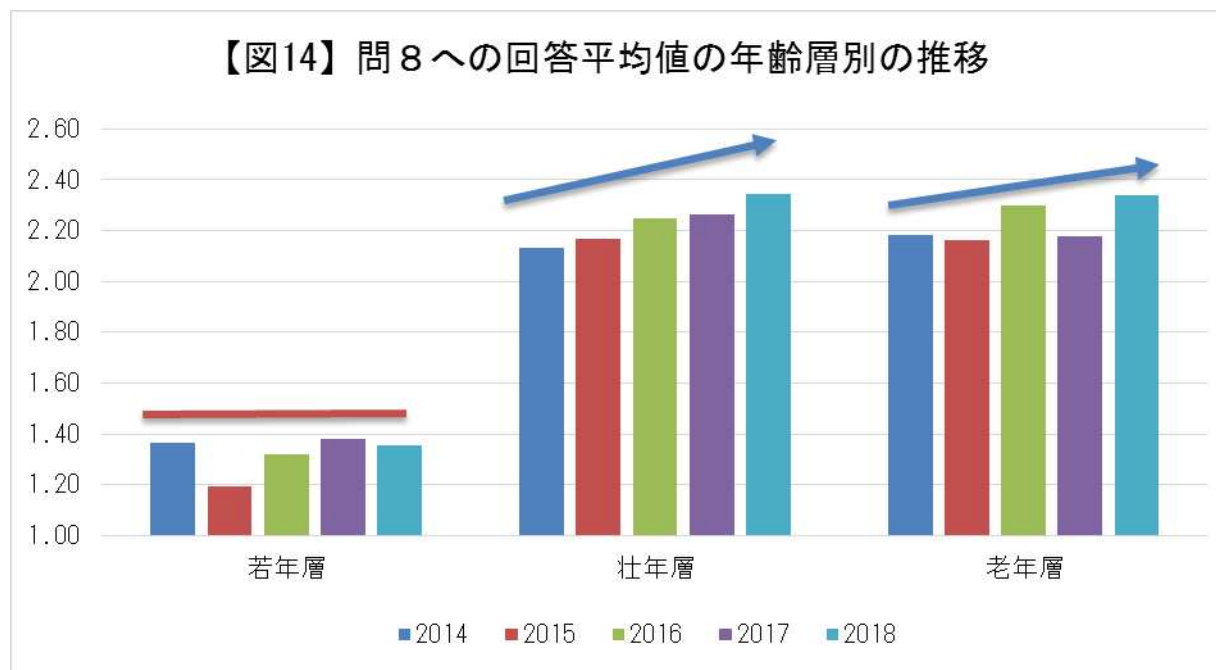
年度	項目	旧市町						合計
		豊岡地域	城崎地域	竹野地域	日高地域	出石地域	但東地域	
2014	回答者数	50	7	8	30	23	17	135
	割合	7.6%	12.7%	8.8%	10.8%	16.2%	20.0%	10.3%
2015	回答者数	43	9	11	23	29	16	131
	割合	6.4%	17.0%	14.3%	7.8%	18.0%	18.2%	9.7%
2016	回答者数	29	15	1	14	12	12	83
	割合	4.1%	22.1%	1.4%	4.8%	7.1%	15.2%	6.0%
2017	回答者数	8	4	2	9	6	12	41
	割合	1.2%	6.5%	3.4%	3.2%	3.8%	12.6%	3.1%
2018	回答者数	16	4	2	4	5	0	31
	割合	2.3%	8.9%	2.2%	1.5%	3.0%	0.0%	2.3%

※割合は地域別の全回答者数に占める割合

次に、問8への回答の平均値の地域別の経年変化を【図13】に表した。城崎地域、出石地域及び但東地域に年度と回答値に有意な相関関係がみられず、t検定においても有意な差は認められない。これらの地区の現状を把握し、適切な対策について市民WSで市民の実感を交えて議論することが必要であると考えられる。



最後に、問8への回答の平均値について、10代と20代を若年層、30代～60代を壮年層、70代と80代を老年層とし年齢層別の経年変化をみた。壮年層及び老年層については、年度と回答値に正の相関関係がみられるため（ $r=0.07\sim 0.05$ 、 $p<0.01$ ）、改善していると言える。しかし、若年層についてはこれがみられないため改善しているとは言えない。したがって若年層に対する対策が必要だと思われる。



## 2.2 「健康長寿のまち」

問10	あなたは現在、自分が健康だと思いますか？
問11	あなたはご自身の健康のために現在どのようなことを心がけていますか？ (複数回答可)
問12	あなたは健康維持・増進のために運動(1日30分以上)をしていますか？
問13	その運動はどのくらい継続されていますか？
問14	あなたは一緒に健康づくりをする仲間がいますか？
問15	運動ができる公園や健康増進施設など、身近なところで健康づくりのできる環境が整っているとと思いますか？

問10から問15に対する回答の平均値の経年変化は【図15】のとおりである。

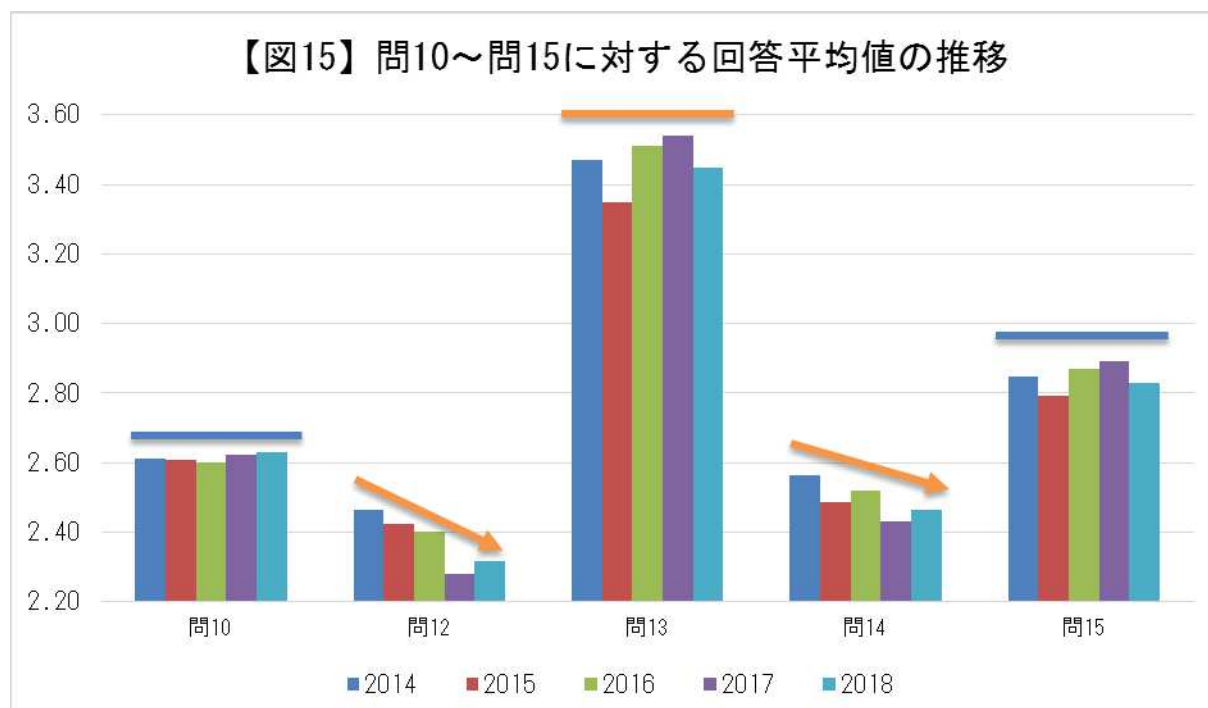
問10に対する回答の平均値は5年間ほとんど変動がみられず、統計的に有意な差も認められない。

問12の運動頻度を問う質問に対する回答は、t検定の結果から、2014年度と2018年度は統計的に有意な差があり( $t=-2.49$   $p<0.05$ )、運動頻度は減少していることが分かる。

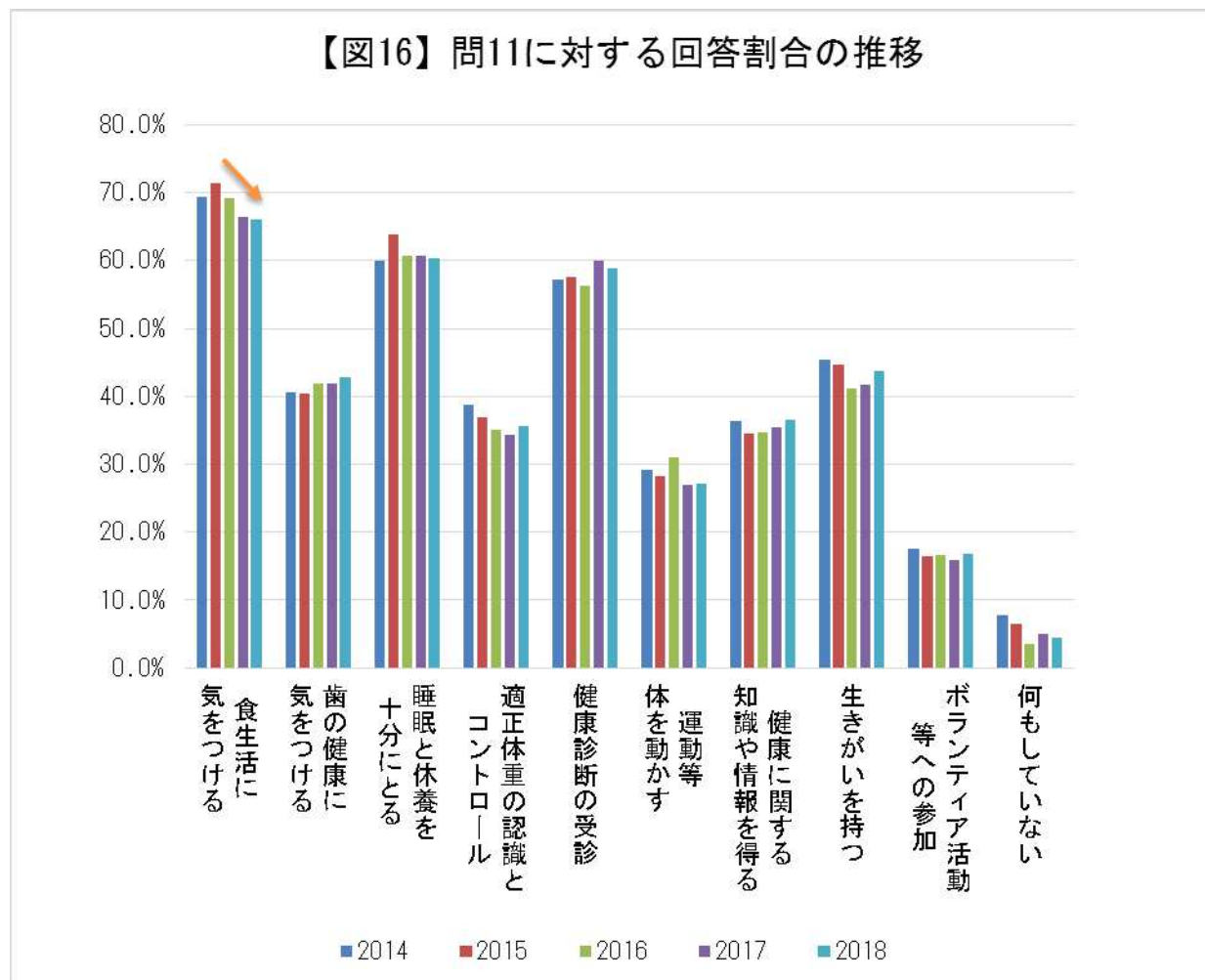
問13の運動継続期間を問う質問に関しては、モニタリング期間を通じて7割程度の人が1年以上継続していると回答している。なお、問12と問13の結果はモニタリング期間を通じて正の相関関係がみられることから( $r=0.20\sim0.27$ ,  $p<0.01$ )、運動をする習慣がある人は長期間継続しているといえる。

問14に対する回答は、t検定の結果から、2014年度と2018年度は統計的に有意な差があり( $t=-1.98$ ,  $p<0.05$ )、健康づくり仲間は少なくなっていることが推測される。また、問12と問14はモニタリング期間を通じて正の相関関係がみられることから( $r=0.31\sim0.36$ ,  $p<0.01$ )、健康づくりをする仲間の存在は運動をすることの契機となっていると言える。

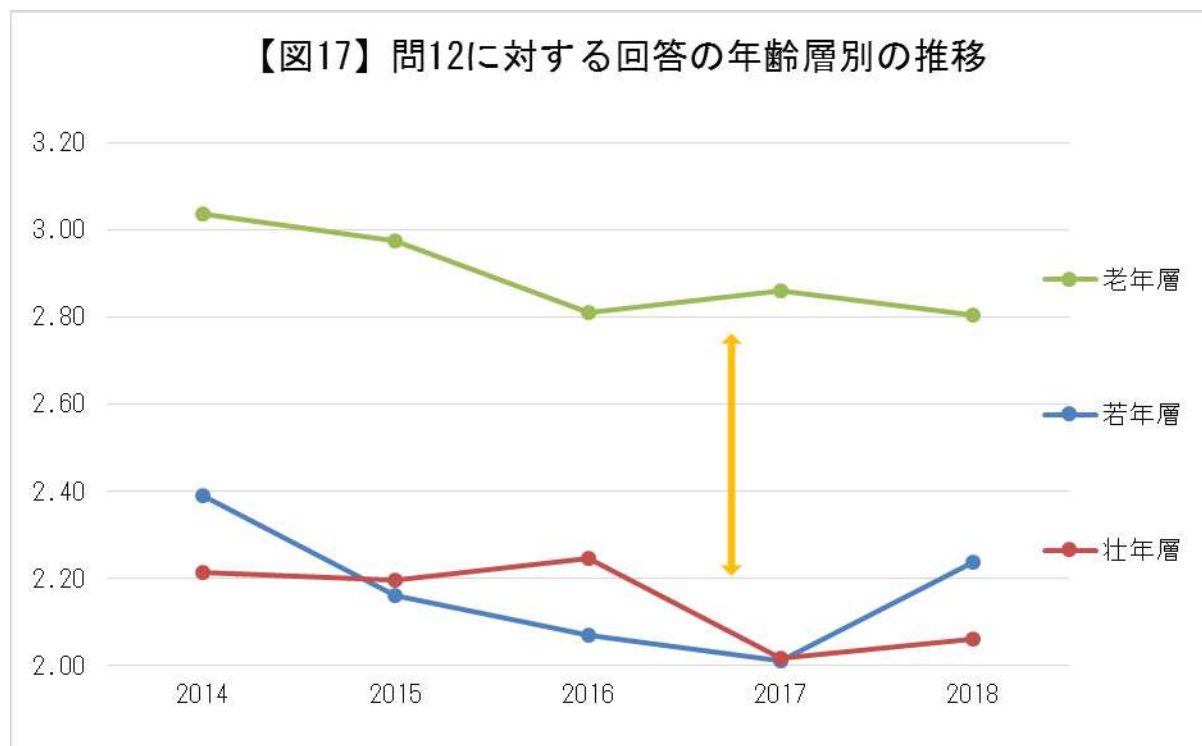
問15に対する回答の平均値の経年変化はほとんどみられず、統計的に有意な差も認められない。



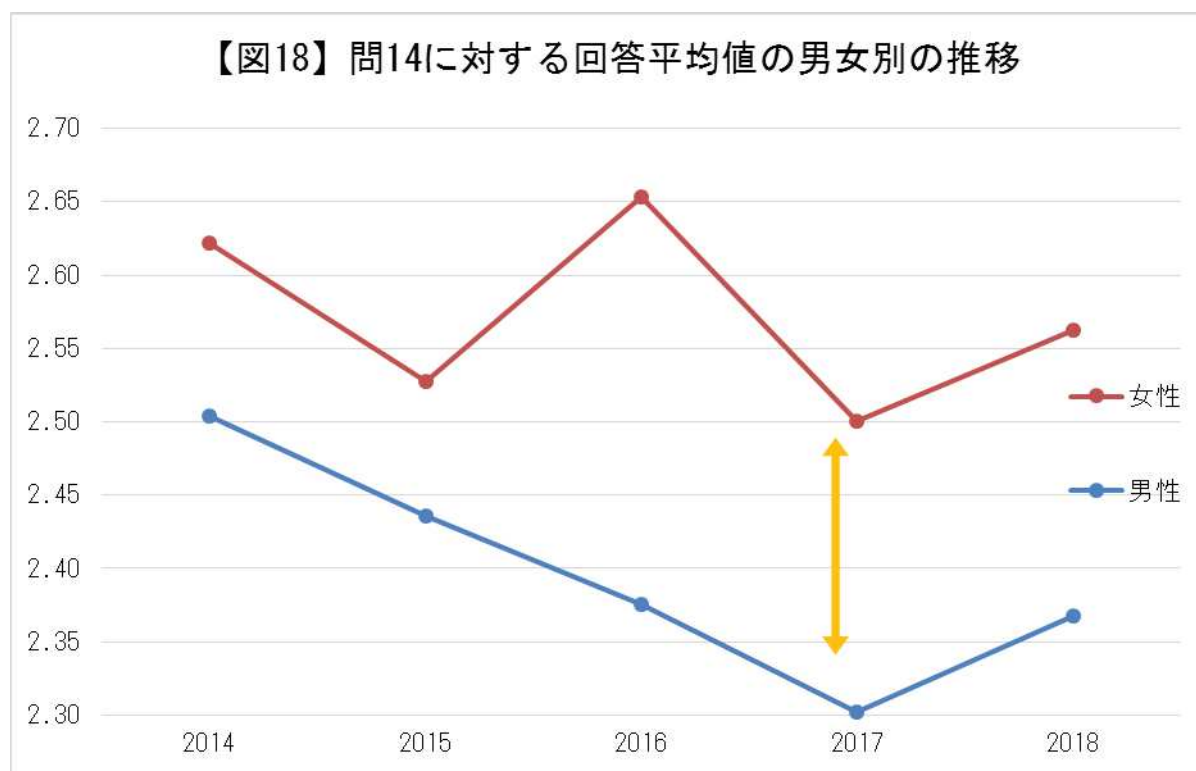
問11に対して各選択肢を回答した人の割合の経年変化は【図16】のとおりである。「食生活に気をつける」が最も高い割合であるが、2015年度と2018年度は、カイ2乗検定の結果、統計的に有意な差があり（カイ2乗値= 8.72(df=1、 $p < 0.01$ ))、「食生活に気をつける」を選択した人の割合は減少していることが分かる。



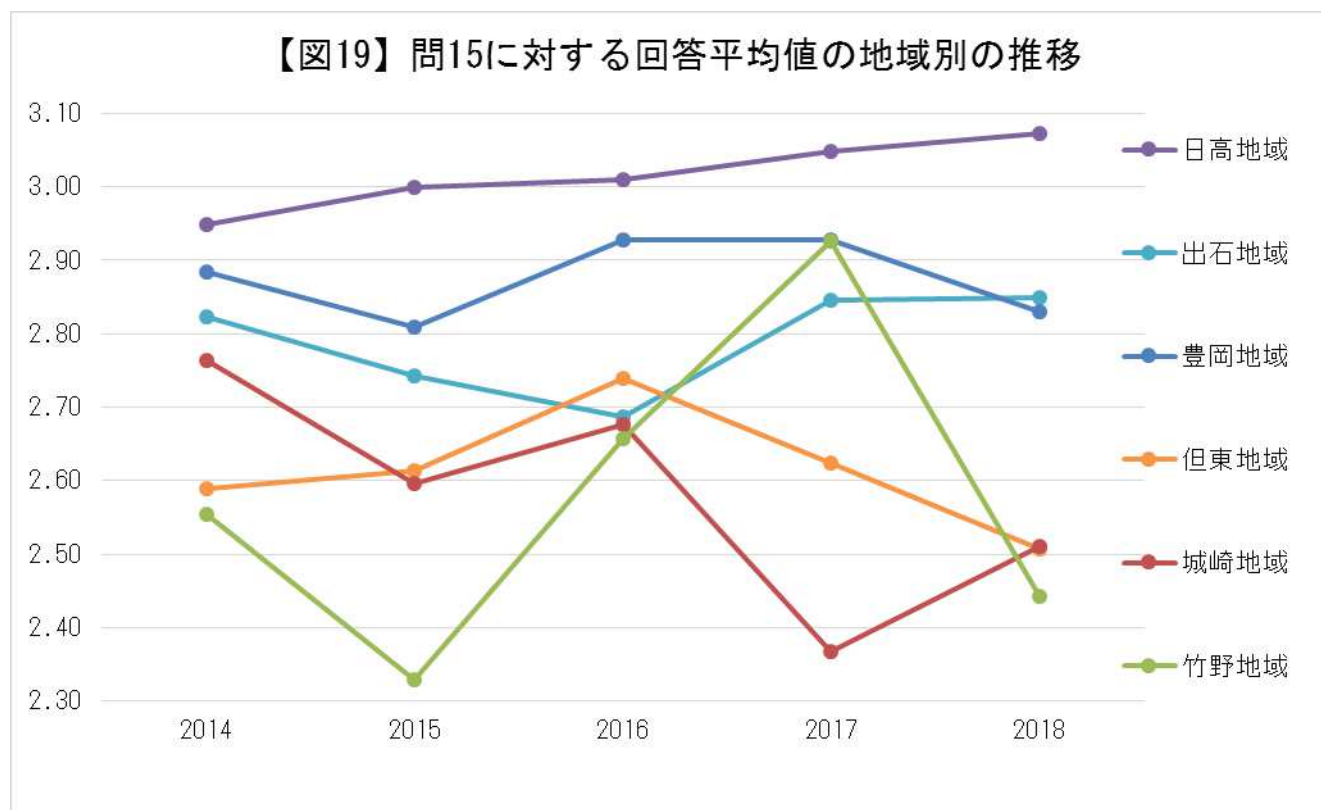
今後の課題として年齢層別の差が挙げられる。問12に対する回答値の年齢層別の推移は【図17】のとおりである。年齢層で差がみられる。特に壮年層と老年層の間には、t検定の結果、統計的に有意な差があり（ $t=6.55\sim 2.29$ 、 $p<0.05$ ）壮年層に対するアプローチが今後も重要であると思われる。



問14の回答値の男女別の推移は【図18】のとおりである。t検定の結果、男性と女性の間には統計的に有意な差があるため（2016～2018： $t=3.93\sim 2.77$ 、 $p<0.01$ ）、男性の運動仲間づくりの機会を増やすことが、全体としての運動習慣を向上させることにつながるとと思われる。男性を意識した施策の展開を期待したい。



問15に対する回答を地域別にみたものが【図19】である。モニタリング期間を通じて日高地域の回答平均値が高い傾向がある。2018年度においては、t検定の結果、出石地域及び豊岡地域に比べ統計的に有意な差がある（出石： $t=2.20$ 、 $p<0.05$  豊岡： $t=3.26$ 、 $p<0.01$ ）。豊岡全体の運動習慣を高めるために、日高地域の運動環境のよさを活用することができないか議論する必要があると思われる。



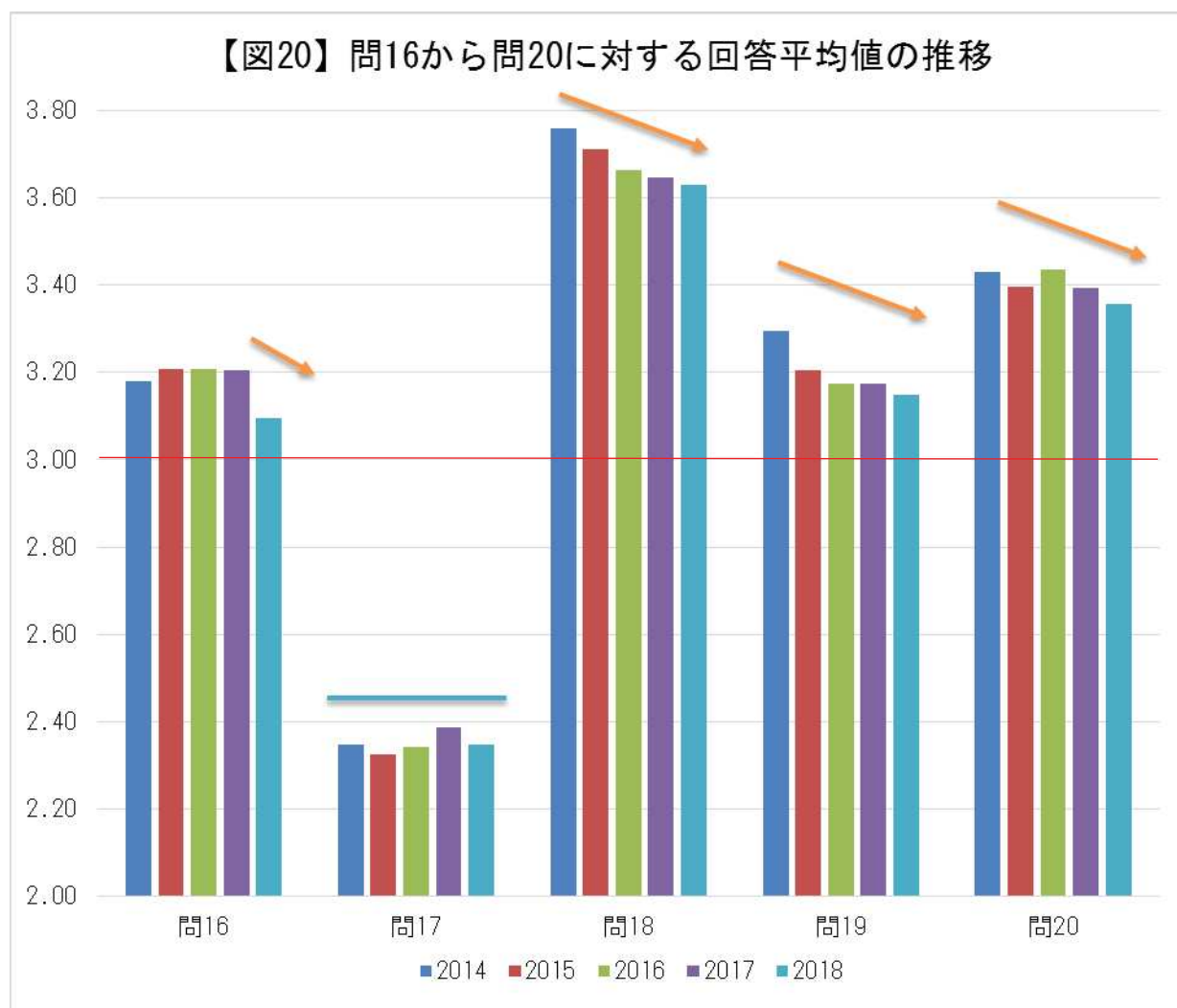


## 2.3 「環境に優しいまち」

問16	豊岡市は、環境に優しいまちだと思いますか？
問17	豊岡市は、近年、経済的に豊かになってきていると思いますか？
問18	日常生活で省エネを意識していますか？
問19	日常生活で環境に配慮した商品意識して購入していますか？
問20	豊岡市の市民や事業者の皆さまによる環境を良くする取組みが、豊岡市の経済にもプラスになると思いますか？

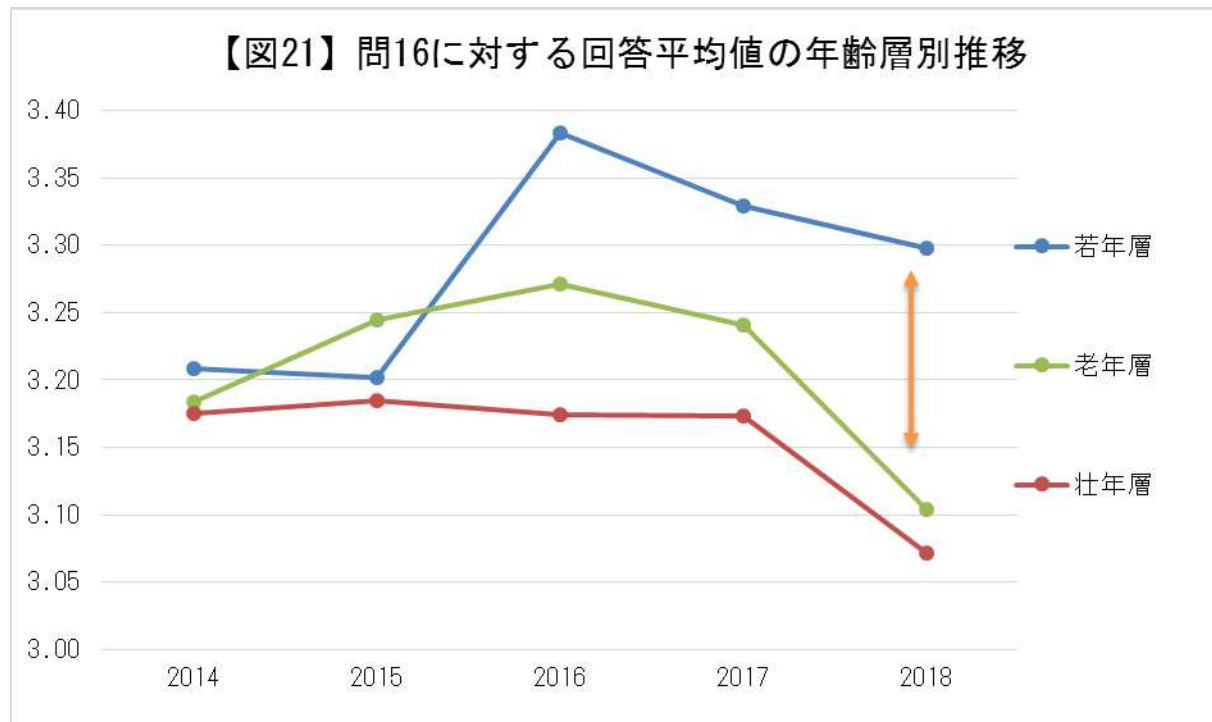
問16から問20に対する回答の平均値の経年変化は【図20】のとおりである。問16に対する回答は、t検定の結果、2017年度と2018年度の間で統計的に有意な差があり（ $t=-2.62$ 、 $p<0.01$ ）、回答値は減少している。また、問18に対する回答（ $t=-4.32$ 、 $p<0.01$ ）、問19に対する回答（ $t=-4.12$ 、 $p<0.01$ ）及び問20（ $t=-2.39$ 、 $p<0.05$ ）に対する2014年度と2018年度の回答は、t検定の結果、統計的に有意な差がみられ、それぞれの回答値は減少傾向にあると言える。

これらの減少は中間値である3.0を超えた値域での減少であり、問題は少ないと思われる。また、環境意識が高まると、環境に対する配慮が回答者にとって当然のことになり、そのことによって厳しい回答値の選択につながることも考えられる。モニタリング調査だけからは推論に限界があるので、この点について他のデータも交え市民ワークショップでの議論が必要だと思われる。

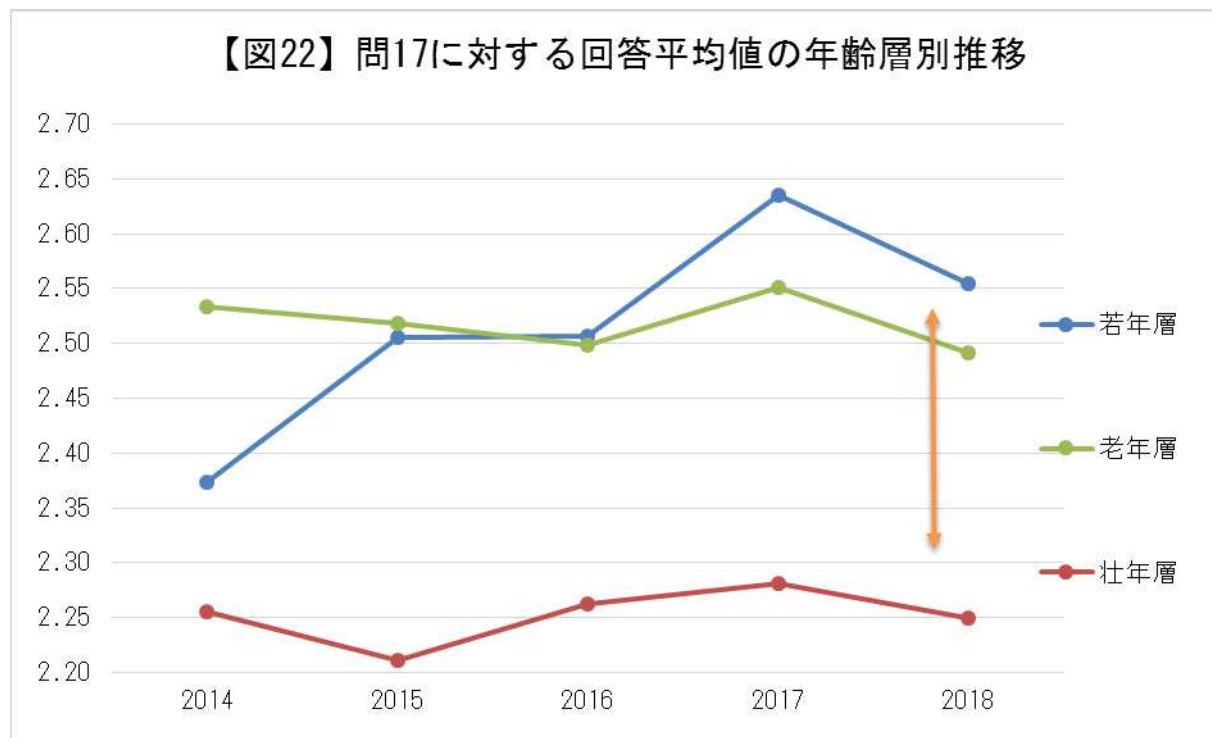


次にそれぞれの質問に対する年齢層別の回答の経年変化をみるために【図21】から【図25】を作成した。

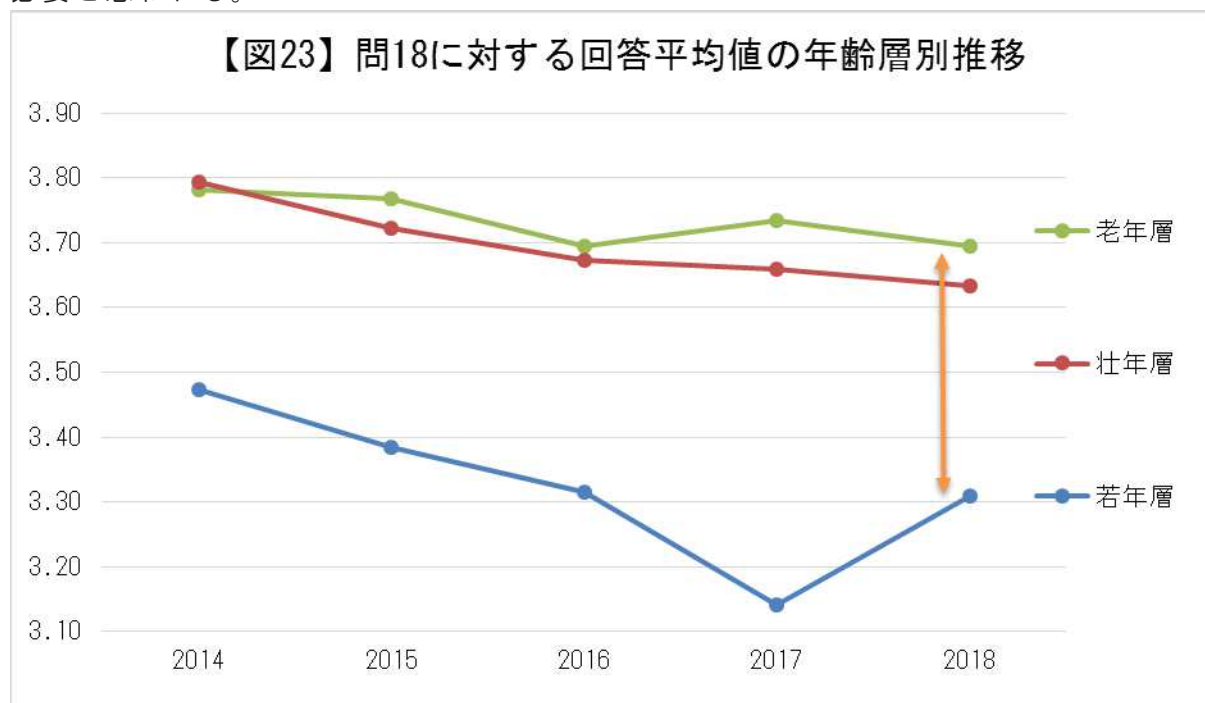
問16については、2016年度以降若年層の回答平均値が高い傾向がみられる。2018年度において老年層と若年層についてt検定を行った結果、統計的に有意な差がみられた ( $t=1.99$ 、 $p<0.05$ )。このことから若年層に対しては、マスコミなどの世論や豊岡市の環境政策などが若者に浸透してきていると解釈できるのではないだろうか。



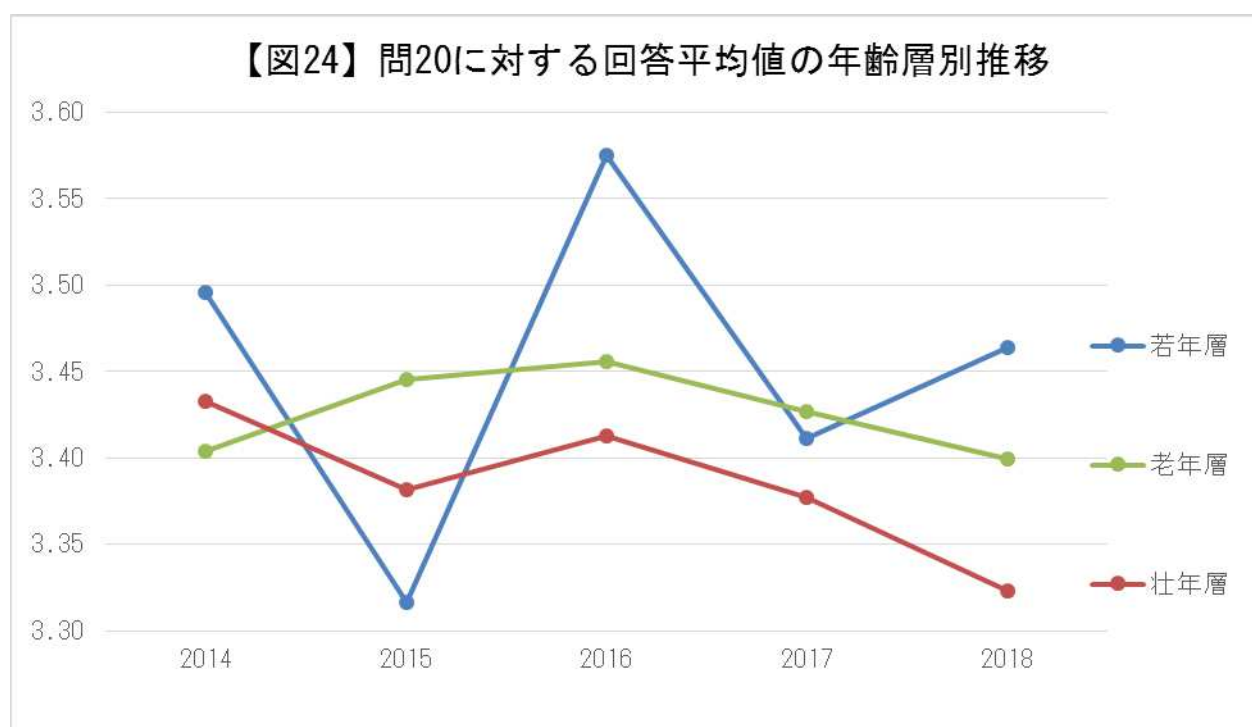
問17については、モニタリング期間を通じて壮年層の回答平均値が低い傾向が続いており、2018年度においては、t検定の結果、若年層と壮年層には統計的に有意な差がみられる ( $t=2.89$ 、 $p<0.01$ )。このことから、壮年層は豊岡市の経済状況について厳しい認識を持ち続けていると言えるだろう。



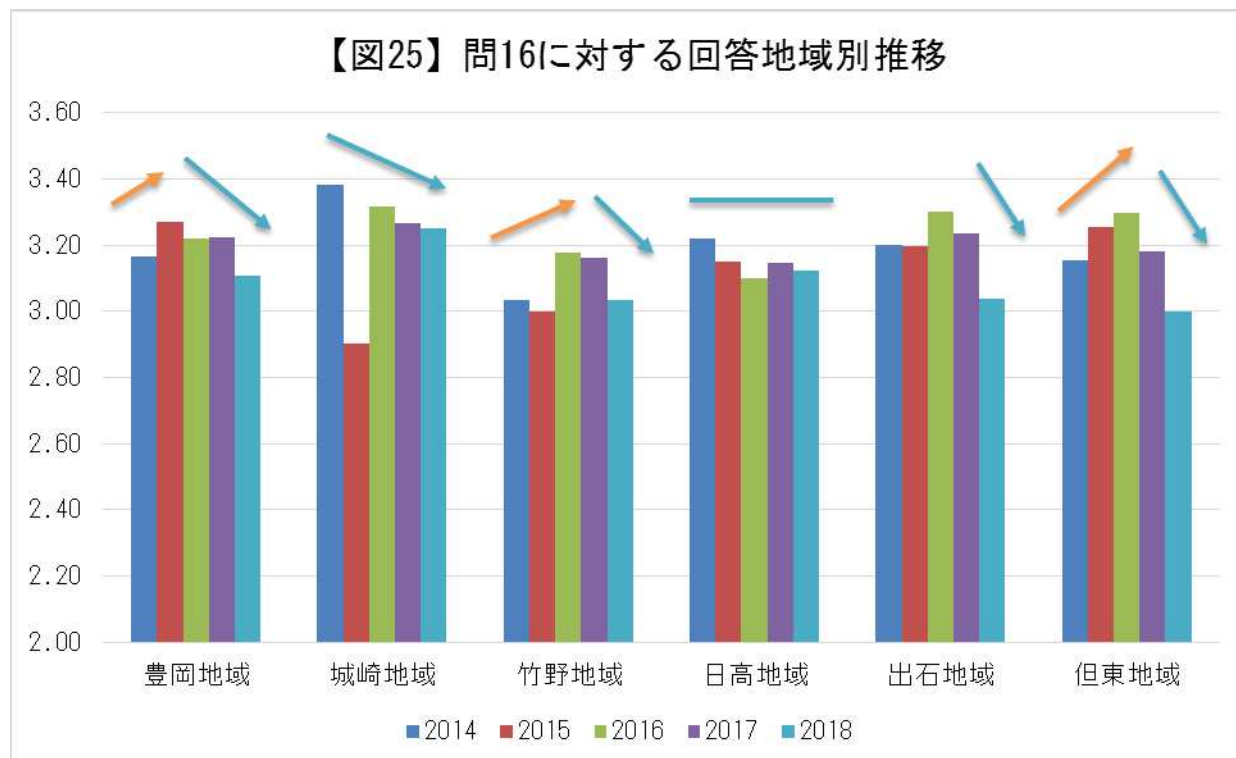
問18については、モニタリング期間を通じて若年層の回答平均値が低い傾向が続いており、2018年度においては、t検定の結果、若年層と壮年層には統計的に有意な差がみられる（ $t=-3.21$ 、 $p<0.01$ ）。問16の結果と合わせて考えると、豊岡市が「環境にやさしい」まちであるという若者が感じていることの内容は、日常生活での「省エネ」ではないということになるのではないだろうか。この点に関して当事者を含めた議論が必要と思われる。



問19についても問18と同様の傾向がみられる。若年層においては、豊岡市が「環境にやさしい」ことと「環境に配慮した商品を購入すること」は別物であると認識しているのではないだろうか。問16、問18及び問19についての若年層が示した示唆について今後検討する必要があると思われる。なお、問20については年齢層による差はみられない。



次に問16の回答について地域別の傾向を【図25】に表した。各地域で図示のとおり統計的に有意な差がみられる(t検定結果等の表示は省略する)。日高地域においては、モニタリング期間を通じて統計的に有意な差はみられない。この地域においては他の地域にはない事情があったのだろうか。



問16から問20に対する回答の性別による差は【表2】のとおりである。この取組み分野に関する意識は性別によって統計的に有意な差が認められるため、今後の活動において男女差を考慮する必要があるだろう。

【表2】

	性別	2014	2015	2016	2017	2018
問16	男性平均値	3.11	3.12	3.15	3.13	3.00
	女性平均値	3.24	3.27	3.27	3.26	3.18
	t検定結果	有意差あり	有意差あり	有意差あり	有意差あり	有意差あり
問17	男性平均値	2.25	2.24	2.23	2.25	2.28
	女性平均値	2.43	2.39	2.44	2.49	2.41
	t検定結果	有意差あり	有意差あり	有意差あり	有意差あり	有意差あり
問18	男性平均値	3.71	3.62	3.56	3.55	3.59
	女性平均値	3.81	3.78	3.75	3.73	3.67
	t検定結果	有意差あり	有意差あり	有意差あり	有意差あり	有意差なし
問19	男性平均値	3.19	3.13	3.06	3.07	3.02
	女性平均値	3.38	3.26	3.28	3.24	3.26
	t検定結果	有意差あり	有意差あり	有意差あり	有意差あり	有意差あり
問20	男性平均値	3.37	3.36	3.35	3.32	3.29
	女性平均値	3.48	3.43	3.50	3.45	3.42
	t検定結果	有意差あり	有意差なし	有意差あり	有意差あり	有意差あり

## 2.4 「おもてなし観光のまち」

問21	豊岡市は、国内外から人が集まる、賑わい活気にあふれたまちだと思いますか？
問22	あなたの地域（合併前の旧市町）にもっと観光客が来てほしいと思いますか？
問23	市外の人に、豊岡市を、訪れる価値のあるまちとして勧めたいと思いますか？
問24	現在、仕事あるいはボランティアとして、豊岡市を訪れる観光客への「おもてなし」活動に関わっていますか？
問25	機会があれば、観光ボランティア・ガイドなどとして、豊岡市の「おもてなし」に関わりたいと思いますか？
問26	豊岡市の魅力的な観光資源は何ですか？

問21から問23及び問25に対する回答平均値の経年変化は【図26】のとおりである。

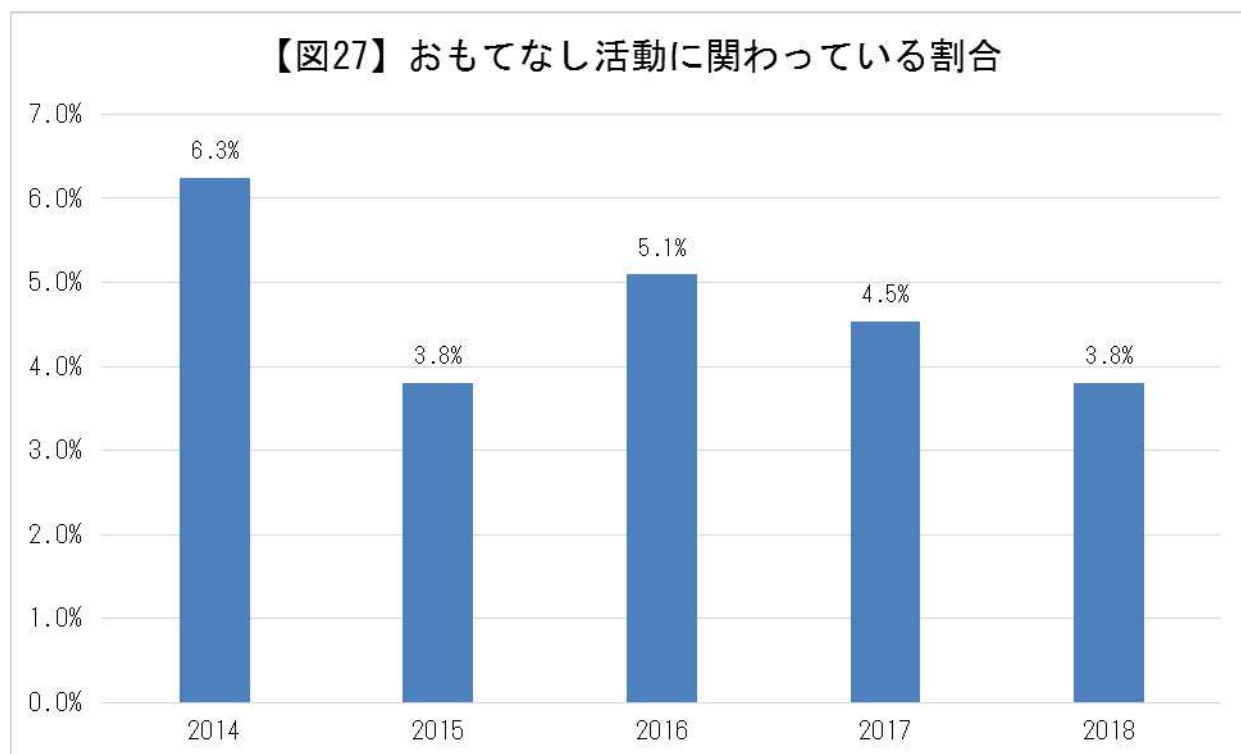
問21に対する回答については、t検定の結果、2014年度と2018年度の間で統計的に有意な差があり（ $t=7.79$ 、 $p<0.01$ ）、年度と回答値にも正の相関関係があるため（ $r=0.10$ 、 $p<0.01$ ）、豊岡市の賑わいを認めている人は増加傾向にあると言える。一方で、問22に対する回答は、t検定の結果、2014年度と2018年度は統計的に有意な差があり（ $t=-5.25$ 、 $p<0.01$ ）、年度と回答値も負の相関関係がある（ $r=-0.8$ 、 $p<0.01$ ）。中間値である3.0を超えた値域での減少傾向であることから、豊岡市を訪れる観光客が増加してきたことに、一定程度満足してきたのではないと思われる。

問23に対する回答値の経年変化については、統計的に有意な差は認められない。問25に対する回答は、t検定の結果、2014年度と2018年度は統計的に有意な差があり（ $t=-3.09$ 、 $p<0.01$ ）、年度と回答値も負の相関関係があるため（ $r=-0.05$ 、 $p<0.01$ ）、おもてなし活動への関わりは消極的な傾向にあると言える。

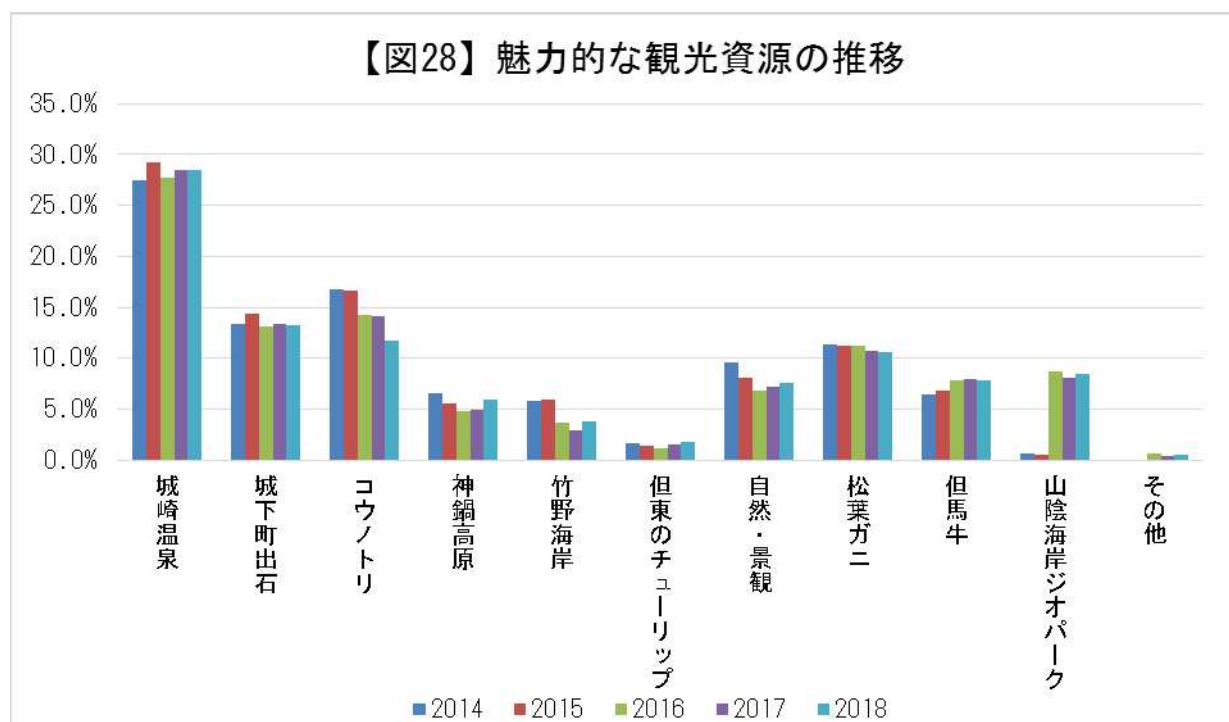
【図26】 問21から問23及び問25に対する回答平均値の推移



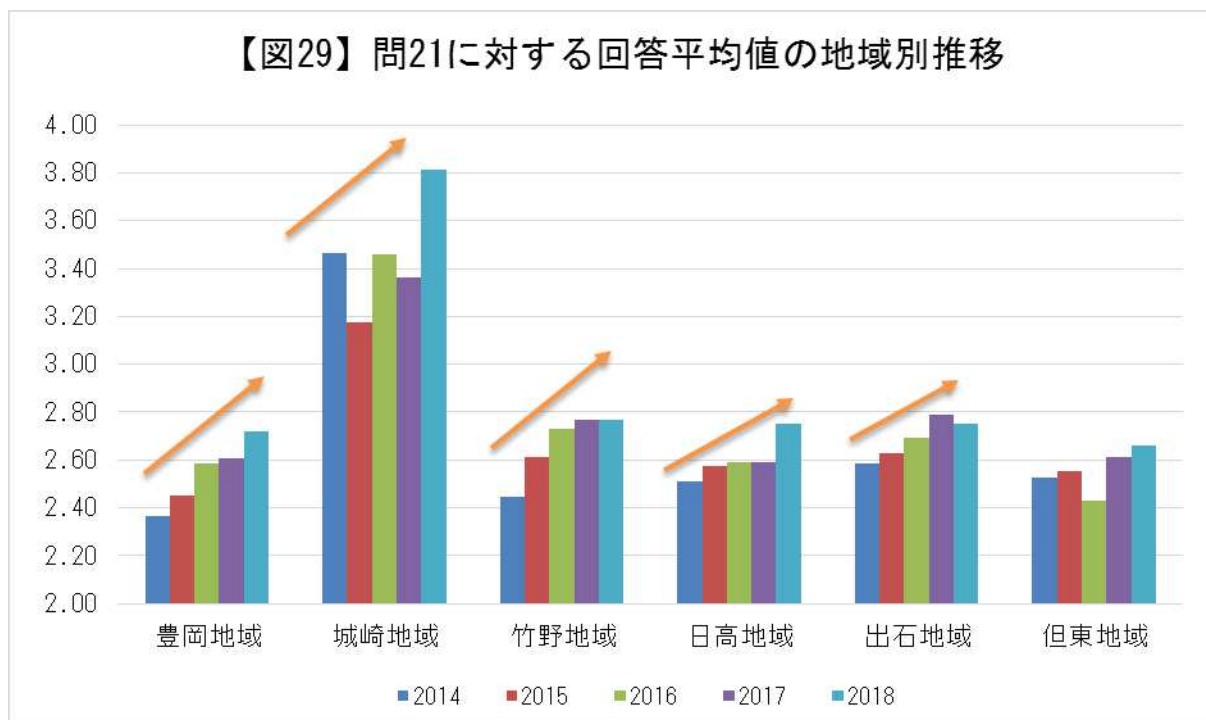
問24に対し「はい」と回答した人の割合は【図27】のとおりである。カイ2乗検定の結果、2014年度と2018年度の割合には統計的に有意な差があり（カイ2乗値=8.04(df=1、p<0.01)、おもてなし活動に関わっている人の割合は減少していると言える。



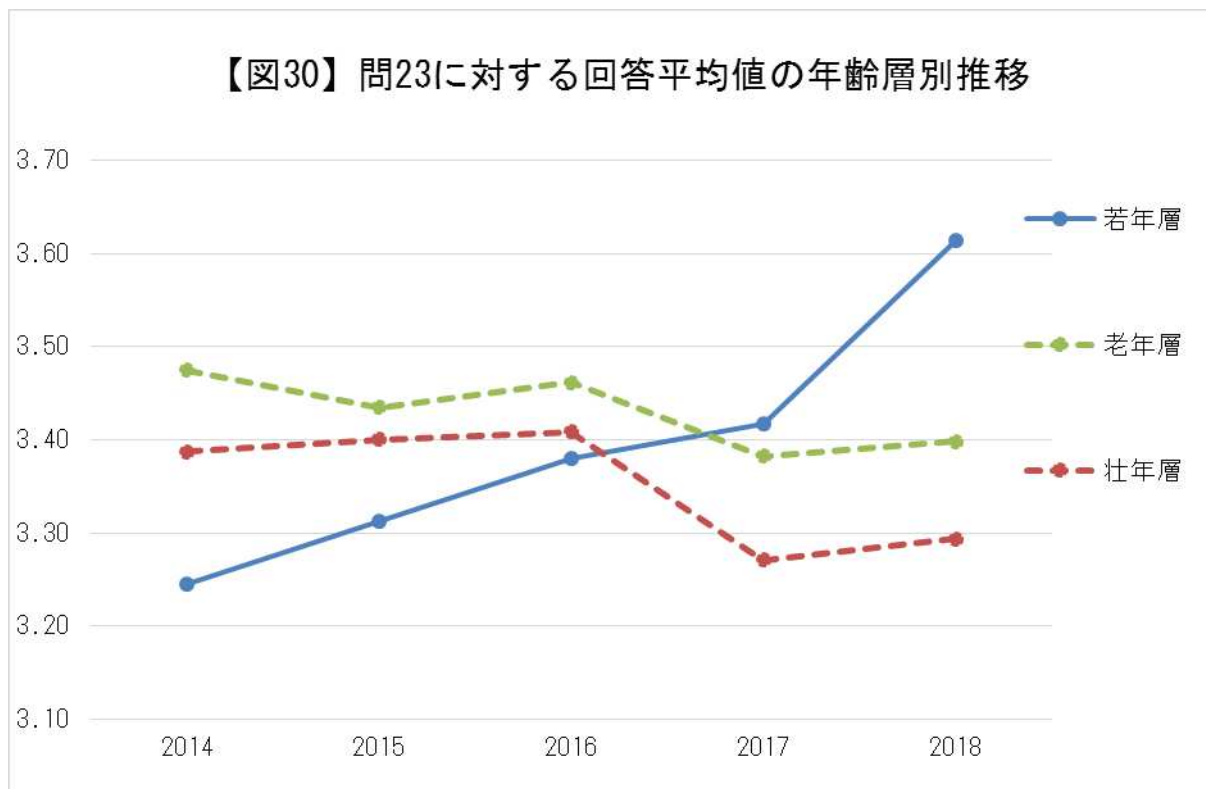
問26に対して、順位に関係なく集計し経年変化を【図28】に表した。モニタリング期間を通じて城崎温泉、城下町出石、コウノトリを挙げる回答者が多かったと言える。ただし、コウノトリと回答する人の割合は減少傾向にあるように思える。山陰海岸ジオパークは、世界ジオパークネットワークへの再認定後に認知度が上がったことが分かる。



問21の回答平均値の経年変化を地域別にみたものが【図29】である。但東地域以外は上昇傾向がみられる。



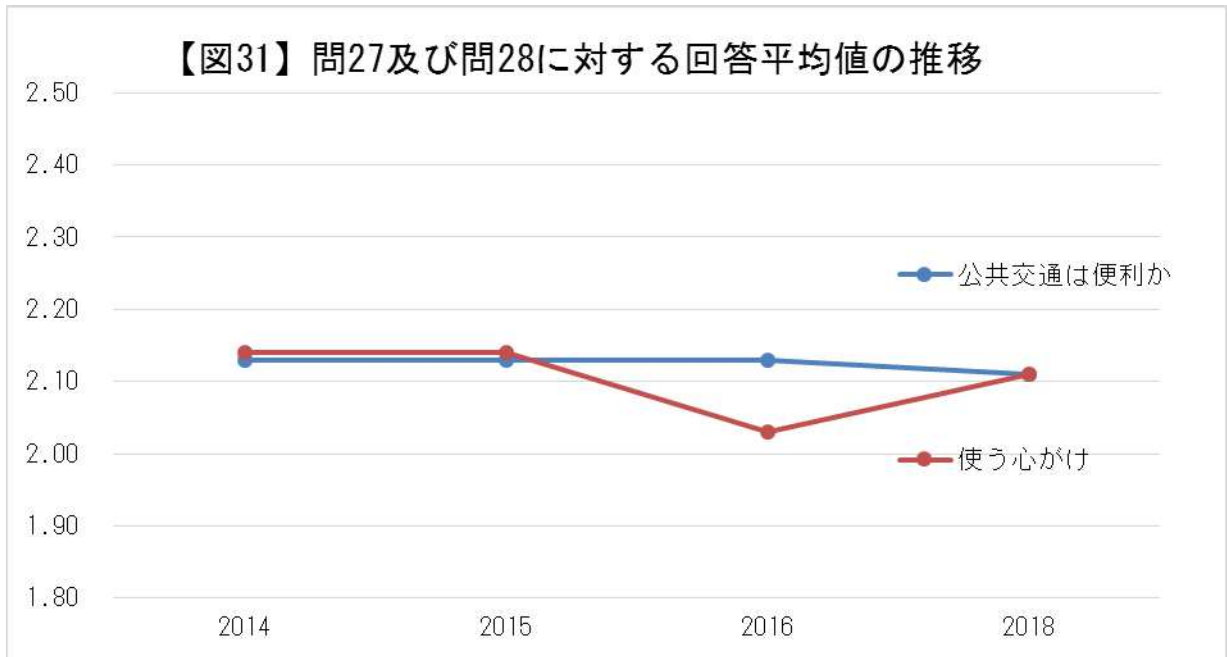
問23の回答平均値の年齢層別推移は【図30】である。若年層については、t検定の結果、2014年度と2018年度には統計的な有意な差があり（ $t=2.51$ 、 $p<0.05$ ）、回答値と年度に正の相関関係があり（ $r=0.12$ 、 $p<0.05$ ）、増加傾向にあることが分かる。これら若年層の傾向からは、若年層は豊岡市の観光資源の価値を認め、市外の人に豊岡を訪れてもらいたいという気持ちは伸びていることがわかる。したがって今後、この年齢層の活動が豊岡市の観光にとって鍵になってくると思われる。



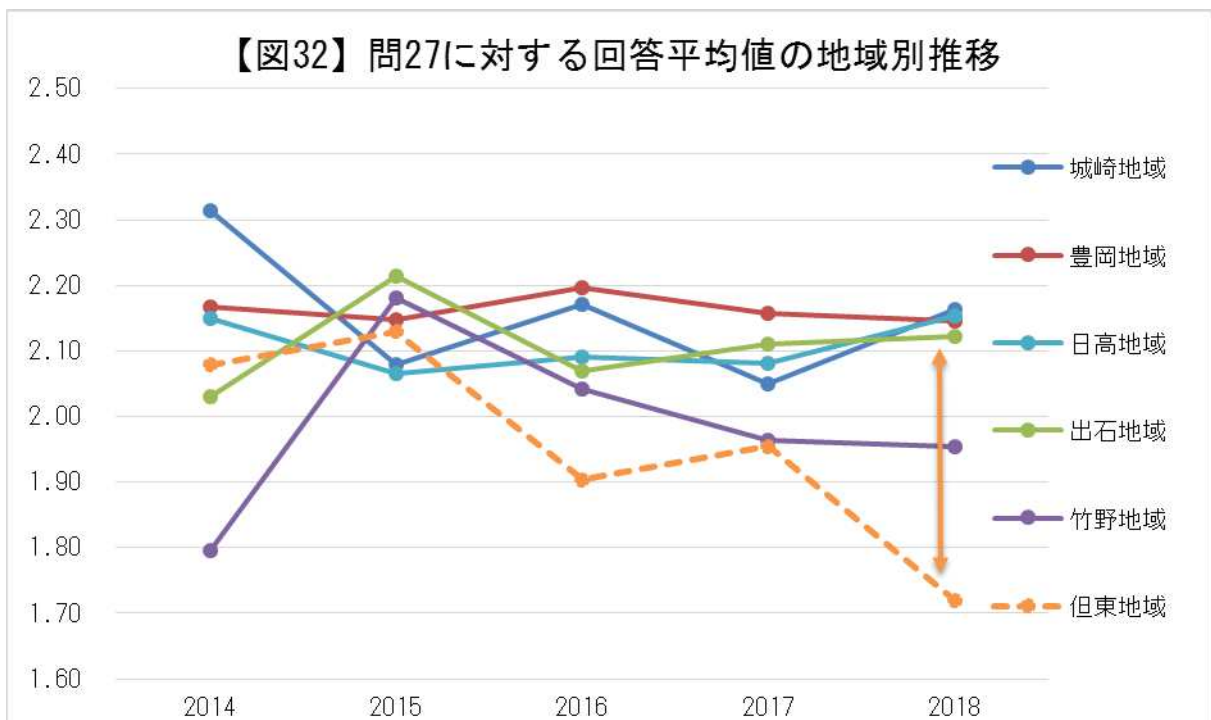
## 2.5 「交通の便利なまち」

問27	豊岡市の公共交通は便利だと思いますか？
問28	日常生活で、公共交通を使うよう心がけていますか？
問29	あなたが、公共交通を使う際の主な目的は何ですか？（複数回答可）
問30	あなたの地域にはどのような公共交通が必要だと思いますか？
問31	ビジネス・レジャー等の際の主な移動手段は何ですか

問27及び問28に対する回答平均値の経年変化は【図31】のとおりである。モニタリング期間を通じて統計的に有意な差はみられない。

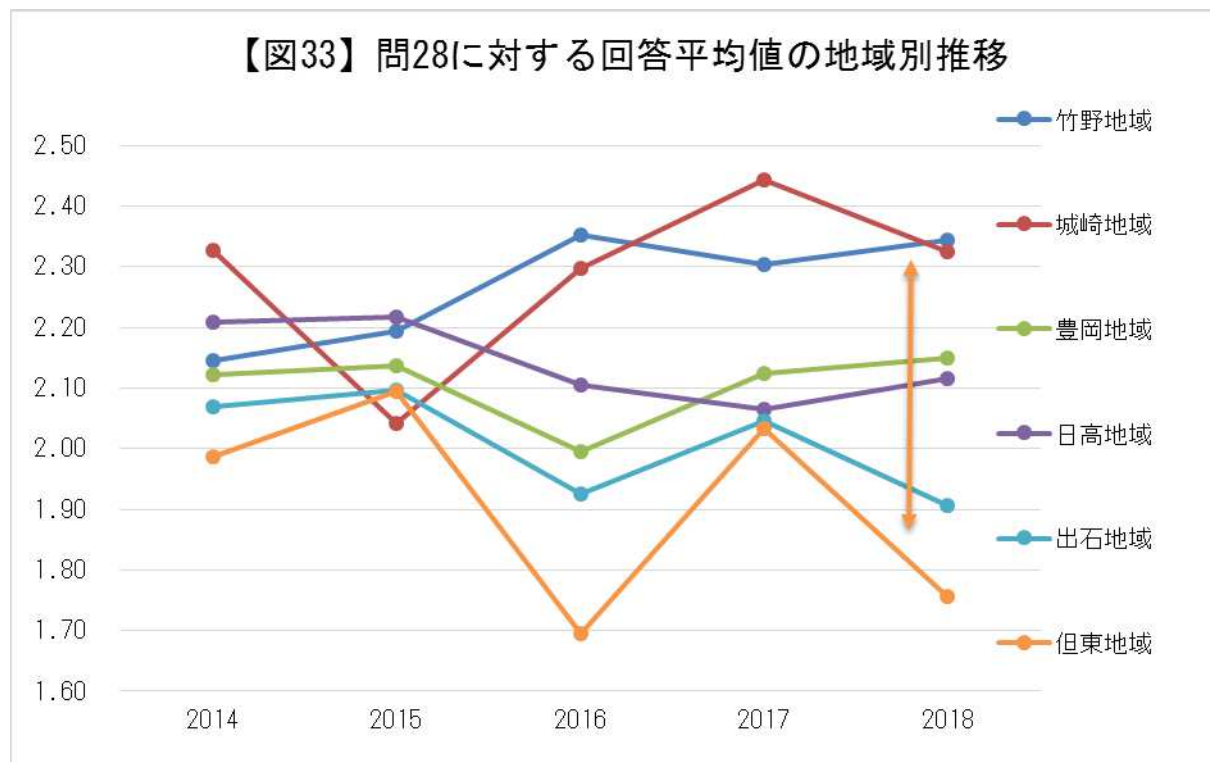


まず、地域別に分析するために、問27に対する回答平均値について地域別の経年変化を【図32】に示した。t検定の結果、2018年度において豊岡地域と但東地域で差がみられる（ $t = -4.90$ 、 $p < 0.01$ ）など、地域差が認められる。

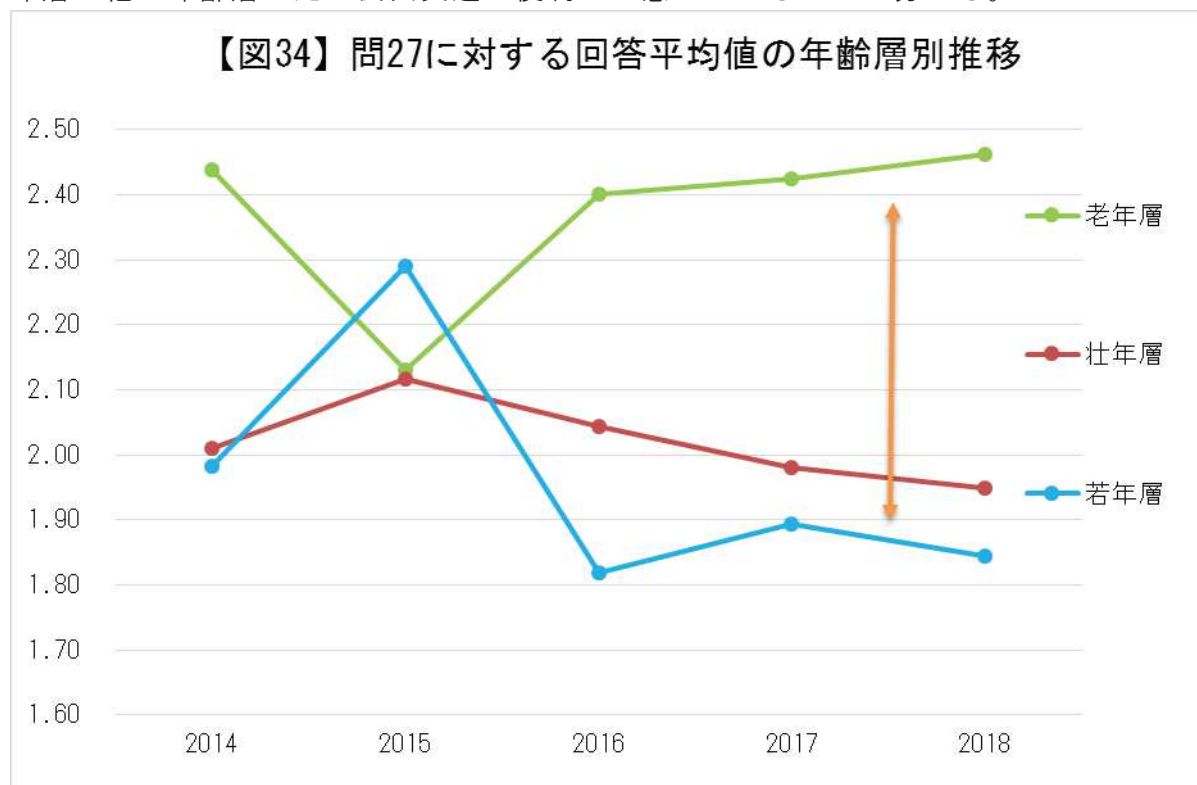




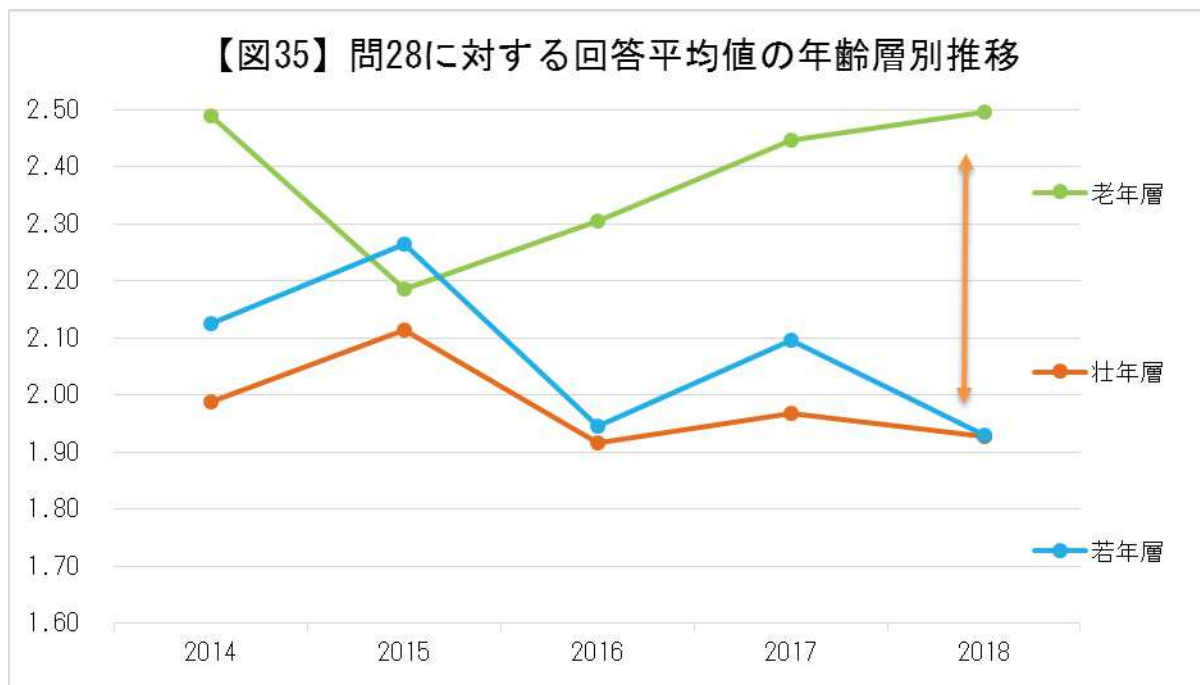
問28に対する回答平均値について地域別の経年変化は【図33】のとおりである。t検定の結果、竹野地域と但東地域で差が見られる（ $t=-4.09$ 、 $p<0.01$ ）など、地域でばらつきが見られ、公共交通を使う心がけにも地域差がみられると言える。



次に、年齢層別の分析を行うために、問27に対する回答平均値の年齢層別の経年変化を【図34】に示した。t検定の結果、2018年度において老年層と壮年層（ $t=-9.24$ 、 $p<0.01$ ）、老年層と若年層（ $t=-5.59$ 、 $p<0.01$ ）には統計的に有意な差がみられる。老年層は他の年齢層に比べ公共交通は便利だと感じていることが分かる。



問28に対する回答平均値の年齢層別の経年変化は【図35】のとおりである。t検定の結果、2018年度において老年層と壮年層（ $t=-9.44$ 、 $p<0.01$ ）、老年層と若年層（ $t=-5.04$ 、 $p<0.01$ ）には統計的に有意な差がみられるため、老年層は公共交通機関を使う心がけが他の年齢層より高いと言える。このように問27及び問28の回答において、年齢層によって実感や意識に差があるということは、何を意味しているのだろうか。

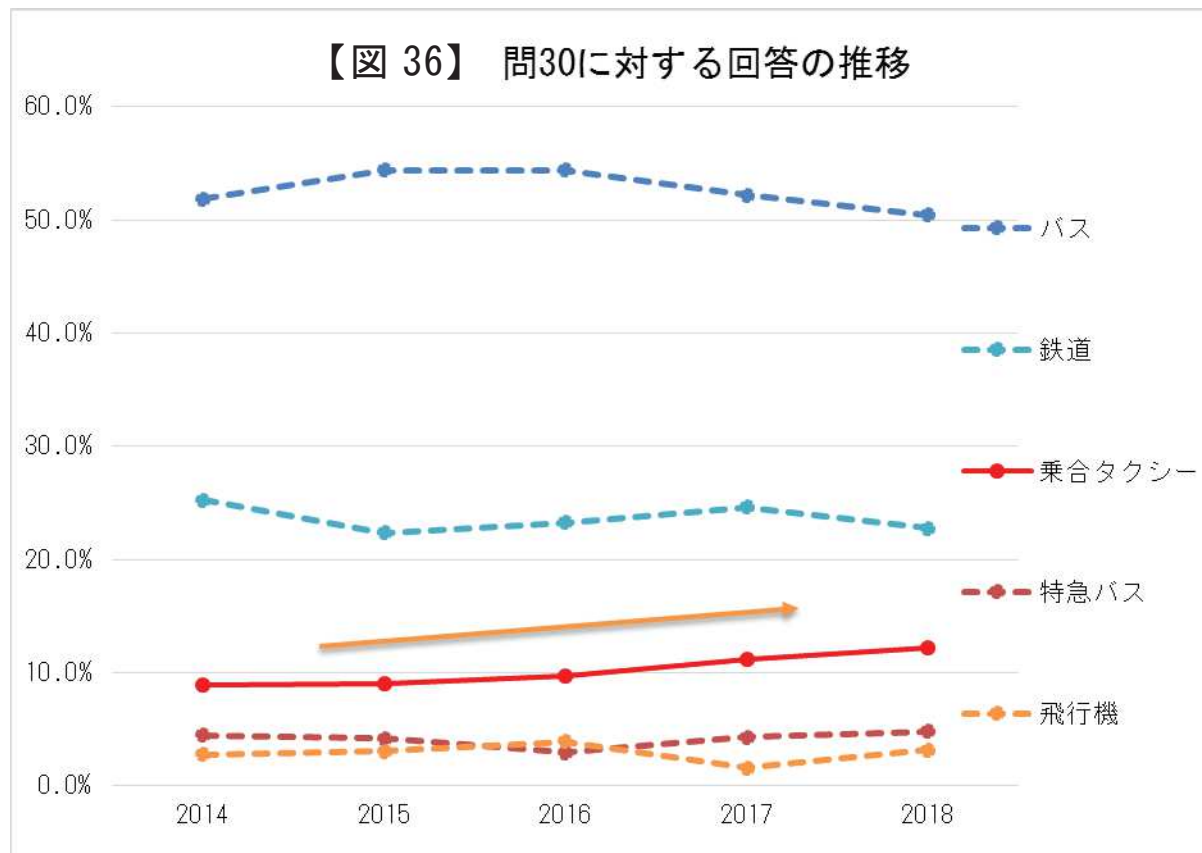


問29に対する2018年度の地域別の回答を【表3】にまとめ、地域別にみて回答割合が高い項目に着色した。この質問は2年度目であるため変化の傾向はまだ分からないが、どの地域も娯楽、通院、業務・仕事で公共交通機関を利用する割合が高い。ただし、但東地域においては日常的な食料品や生活雑貨の買い物についても公共交通を利用することが多いことが分かる。

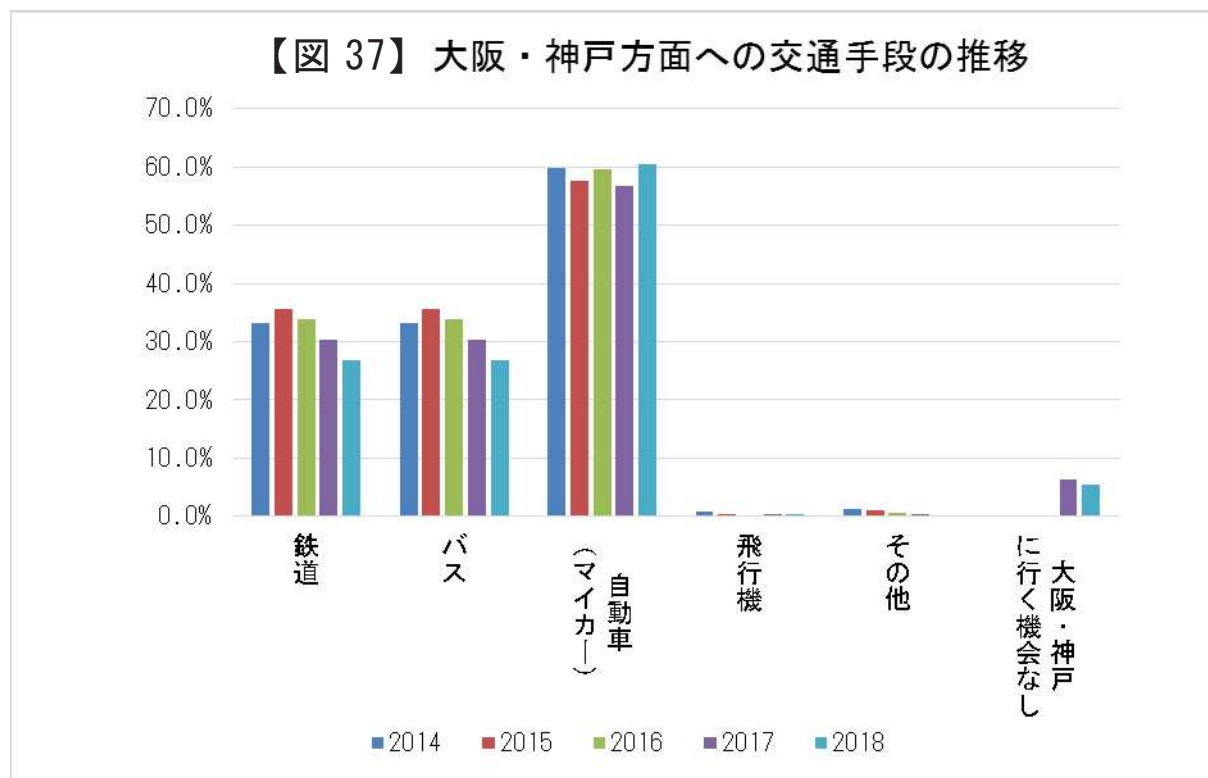
**【表3】**

地域	使う目的				
	通勤・通学	通院	日常的な食料品や生活雑貨などの買い物	娯楽（レジャー、飲食など）	業務・仕事（出張、顧客訪問など勤務先以外での仕事）
豊岡地域	6.7%	16.8%	9.9%	35.3%	18.3%
城崎地域	5.4%	37.8%	8.1%	40.5%	5.4%
竹野地域	9.9%	11.3%	7.0%	43.7%	7.0%
日高地域	5.3%	15.9%	7.7%	40.9%	17.3%
出石地域	4.8%	16.9%	2.4%	39.5%	16.9%
但東地域	8.8%	12.3%	17.5%	17.5%	14.0%

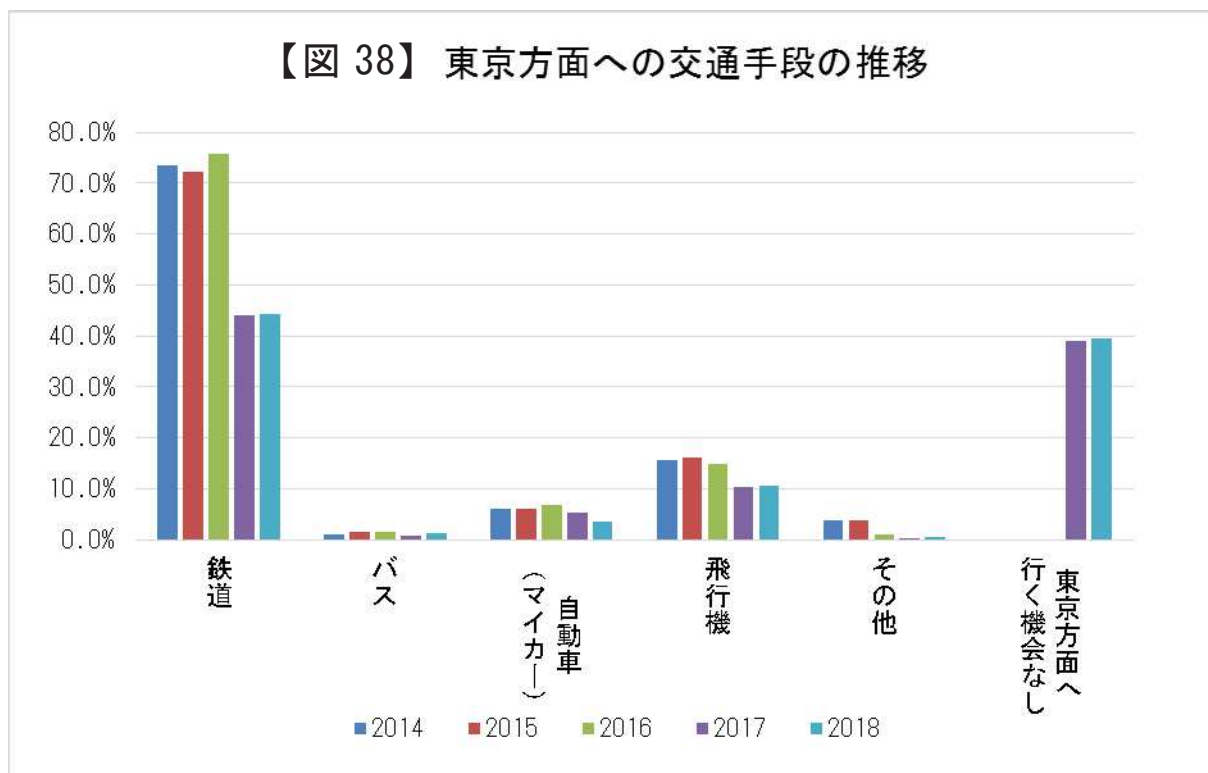
問30に対する回答で、「最も必要」な公共交通についての経年変化を【図36】で表した。カイ2乗検定の結果、2014年度と2018年度について「乗り合いタクシー」は統計的な有意な差が認められ（カイ2乗値=244(df=1、 $p<0.01$ ))、「乗り合いタクシー」の必要性が高まっていることが分かる。



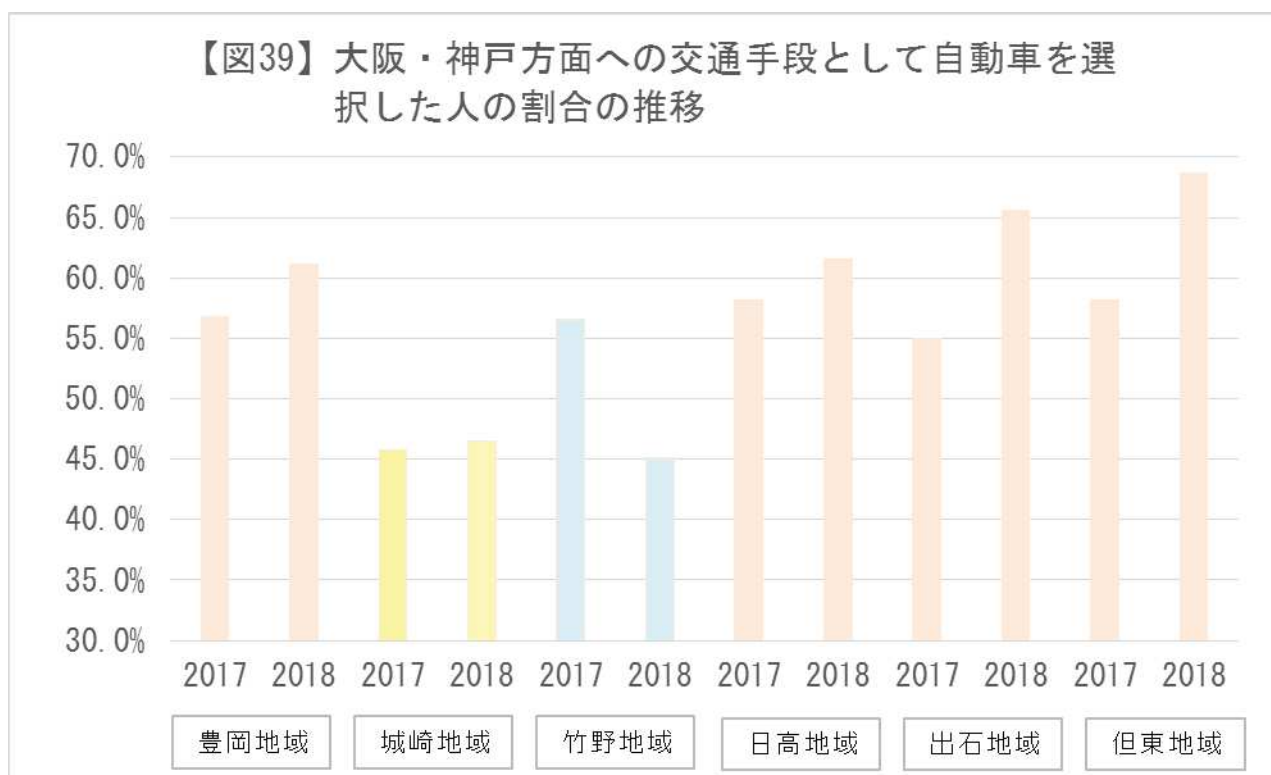
問31では大阪・神戸方面及び東京方面へ出かける際の交通手段を質問している。それぞれの交通手段を選択した割合の経年変化は【図37】及び【図38】である。



2017年度から「でかける機会がない」という回答を新設したため単純な比較は困難であるものの、大阪・神戸方面への主要な交通手段は自動車（マイカー）で、東京方面への主要な交通手段は鉄道であると言える。



2017年度以降の大阪・神戸方面に自動車で行くと回答した人の割合は【図39】のとおりである。城崎地域及び竹野地域以外は自動車と回答した人の割合は、統計的に有意な差とは言えないものの、5%以上増加している。これらは2017年3月に開通した八鹿日高道路の影響の可能性もあり、今後日高豊岡南道路の開通も予定されていることから今後も注視する必要があると思われる。



2017年度以降の東京方面に限った回答の割合は表4のとおりである。鉄道と飛行機がおおよそ4対1の割合である。それぞれの交通手段において運搬できる人数を考慮すれば、飛行機は東京に行く人にとって重要な交通手段であると言えるだろう。

また、0.5%のバス利用者割合の増加は、統計的に有意な増加とは言えないものの、東京直行バスの運行開始に伴う影響に今後注目する必要があるだろう。

【表4】

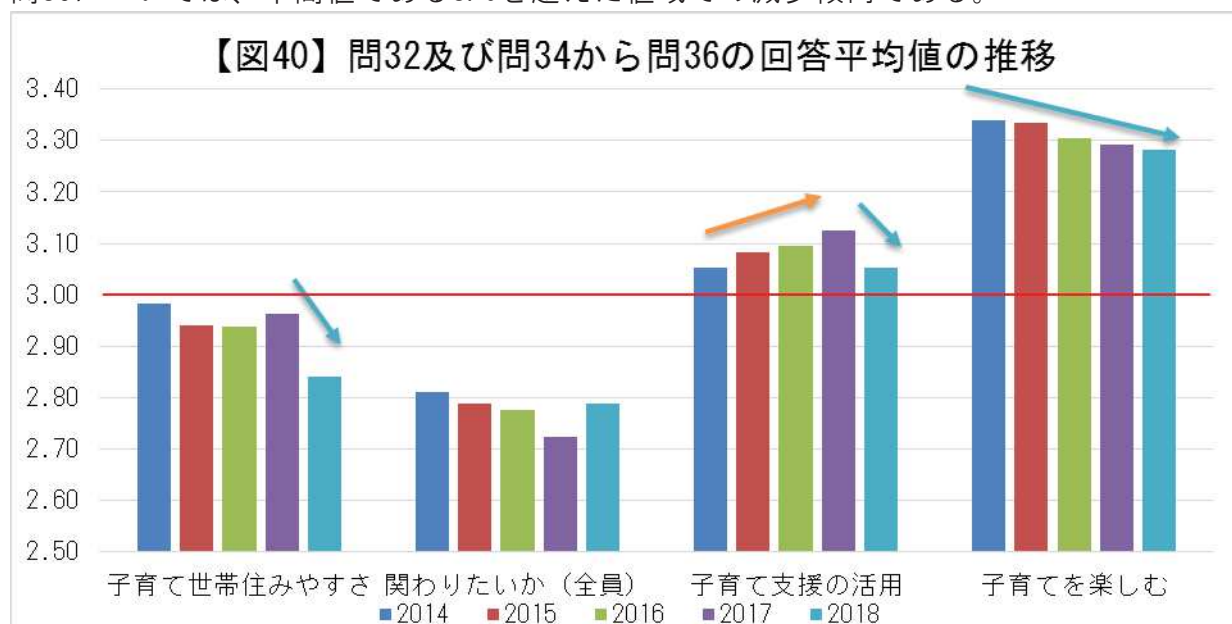
	鉄道	バス	自動車 (マイカー)	飛行機	その他	東京方面へ 行く機会なし
2017	44.1%	0.9%	5.5%	10.4%	0.2%	39.0%
2018	44.3%	1.4%	3.6%	10.5%	0.5%	39.6%

## 2.6 「子育てに優しいまち」

問32	豊岡市は子育て世帯が住みやすいまちだと思いますか？
問33	現在、仕事またはボランティアとして、子育てを支援したり、地域の子ども会イベントなどの活動に関わったりしていますか？
問34	機会があれば、これらの活動に関わってみようと思いますか？
問35	あなた自身、あるいはあなたの周囲で子育てをしている方は、市の子育て支援サービスを活用していますか？
問36	あなた自身、あるいはあなたの周囲で子育てをしている方は、子育てを楽しんでいますか？

問32、問34、問35及び問36に対する回答平均値の経年変化は【図40】のとおりである。問32に対する回答は、t検定の結果、2017年度と2018年度は統計的に有意な差があり（ $t=-3.68$ 、 $p<0.01$ ）、回答値は減少しており、原因についての議論が必要だろう。

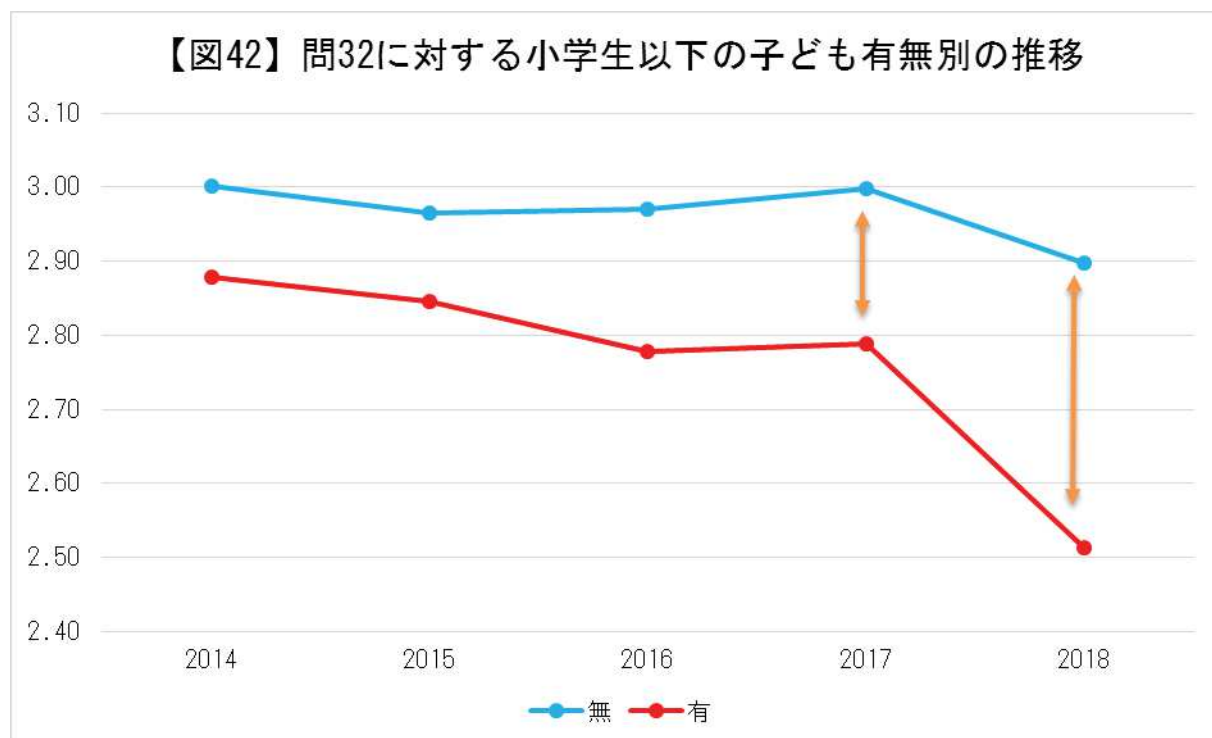
問35に対する回答は、2017年度まで回答値と年度には正の相関関係があり（ $r=0.05$ 、 $p<0.05$ ）、増加にあった。しかしt検定の結果、2017年度と2018年度は統計的に有意な差があり（ $t=-2.24$ 、 $p<0.05$ ）、減少していると言える。問36に対する回答は、回答値と年度には負の相関があり（ $r=-0.03$ 、 $p<0.05$ ）、減少傾向にあると言える。問35及び問36については、中間値である3.0を超えた値域での減少傾向である。



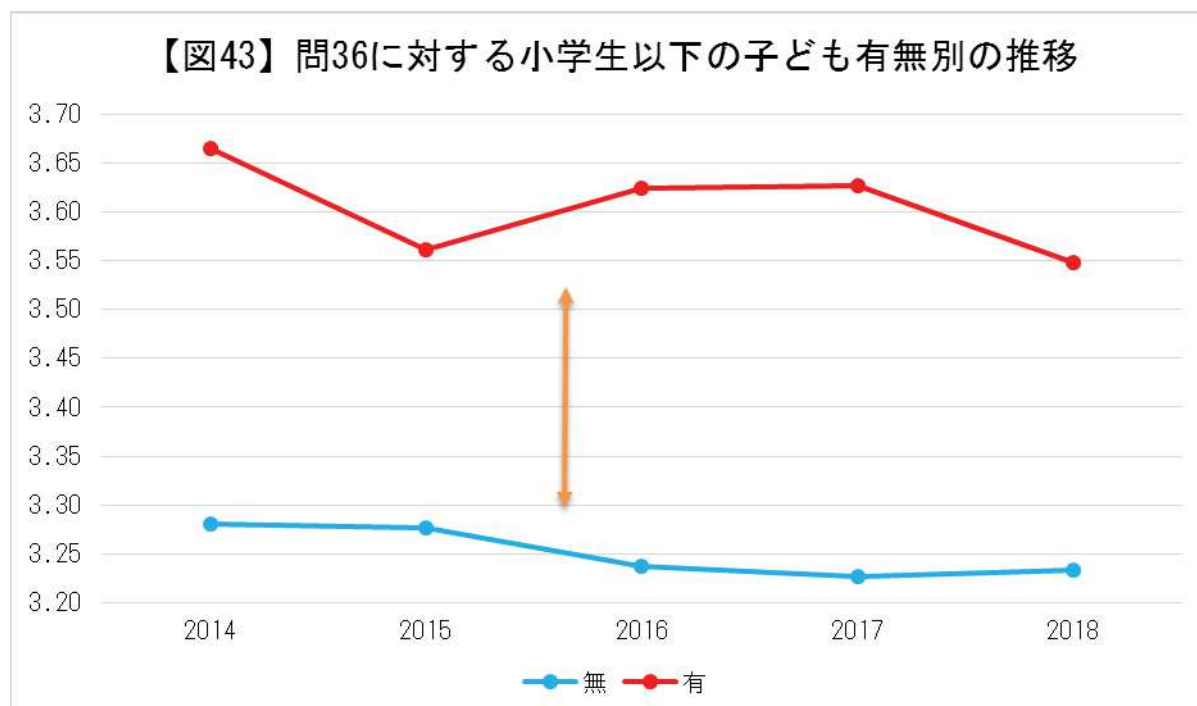
問33に対して「はい」と回答した人の割合の経年変化は【図41】のとおりである。カイ2乗検定の結果、2014年度と2018年度には統計的に有意な差があり（カイ2乗値=13.17(df=1、 $p<0.01$ ）、関わっている人の割合は減っていると言える。



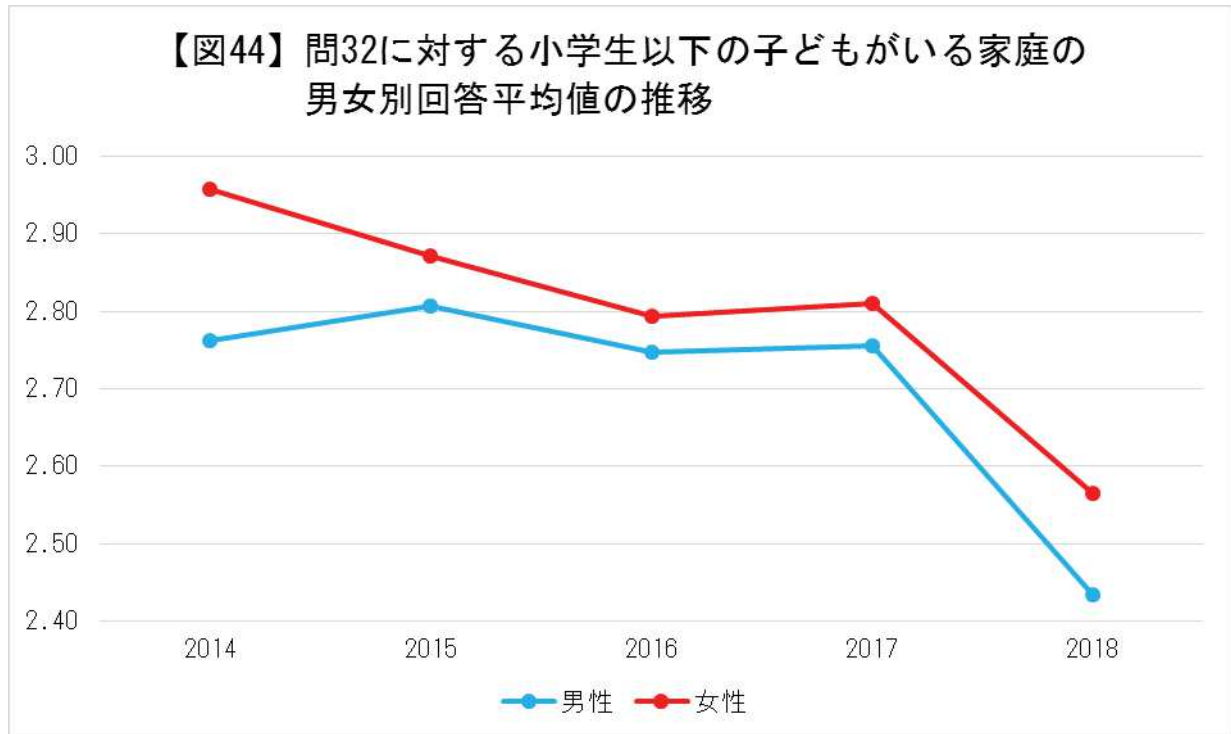
問32に対する小学生以下の子どもの有無別の回答平均値の経年変化は【図42】のとおりである。t検定の結果、2017年度以降に小学生以下の子どもの有無によって統計的に有意な差がみられ（2018:t=-4.69、p<0.01 2017:t=-2.73、p<0.01）、小学生以下の子どもがいる世帯は、小学生以下の子どもがいない世帯よりも住みやすいと思わない傾向があると言える。



問36に対する小学生以下の子どもの有無別の回答平均値の経年変化は【図43】のとおりである。モニタリング期間を通じて統計的に有意な差がみられ（t=6.60~5.15、p<0.01）、小学生以下の子どもが世帯内にいる回答者の回答値が高いと言える。小学生以下の子どもがいる世帯は、小学生以下の子どもがいない世帯よりも子育てを楽しんでいる傾向があると言える。

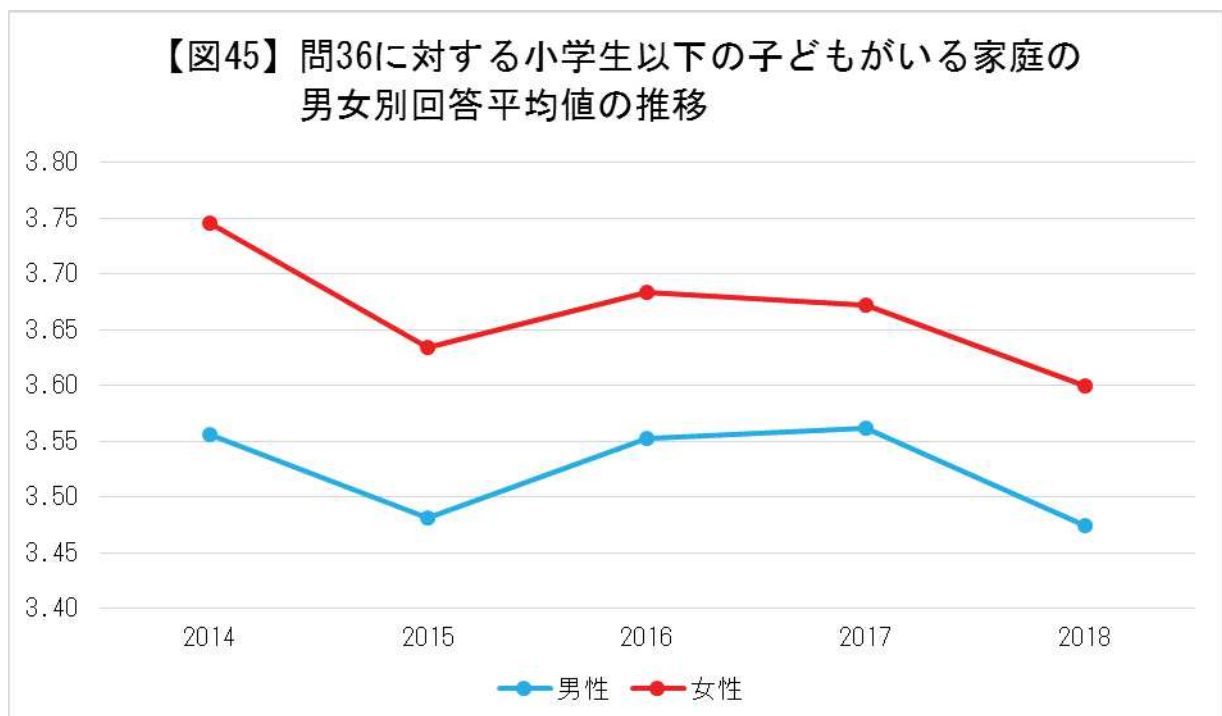


問32に関して、小学生以下の子どもがいる家庭における男女別回答平均値の経年変化は【図44】のとおりである。男女別に統計的に有意な差があるとは言えないものの、回答平均値はモニタリング期間を通じて常に男性が低いという特徴がみられる。



問36に関して、小学生以下の子どもがいる家庭における男女別回答平均値の経年変化は【図45】のとおりである。問32と同様に、男女別に統計的に有意な差があるとは言えないものの、回答平均値はモニタリング期間を通じて常に男性が低いという特徴がみられる。

【図42】～【図45】で示された小学校以下の子どもがいる家庭としない家庭及び男女別の差が何を意味しているのかについて、市民ワークショップでの議論の対象となりえると思われる。





## 2.7 「エコ農業のまち」(2015年度からモニタリング調査を実施)

問37	食品を購入する時など、その食品や材料が無農薬・減農薬かどうかを意識しますか？
問38	あなたは、「コウノトリの舞」という農産物ブランドをご存じですか？
問39	購入（又は継続的に購入）しない理由をお聞かせください。

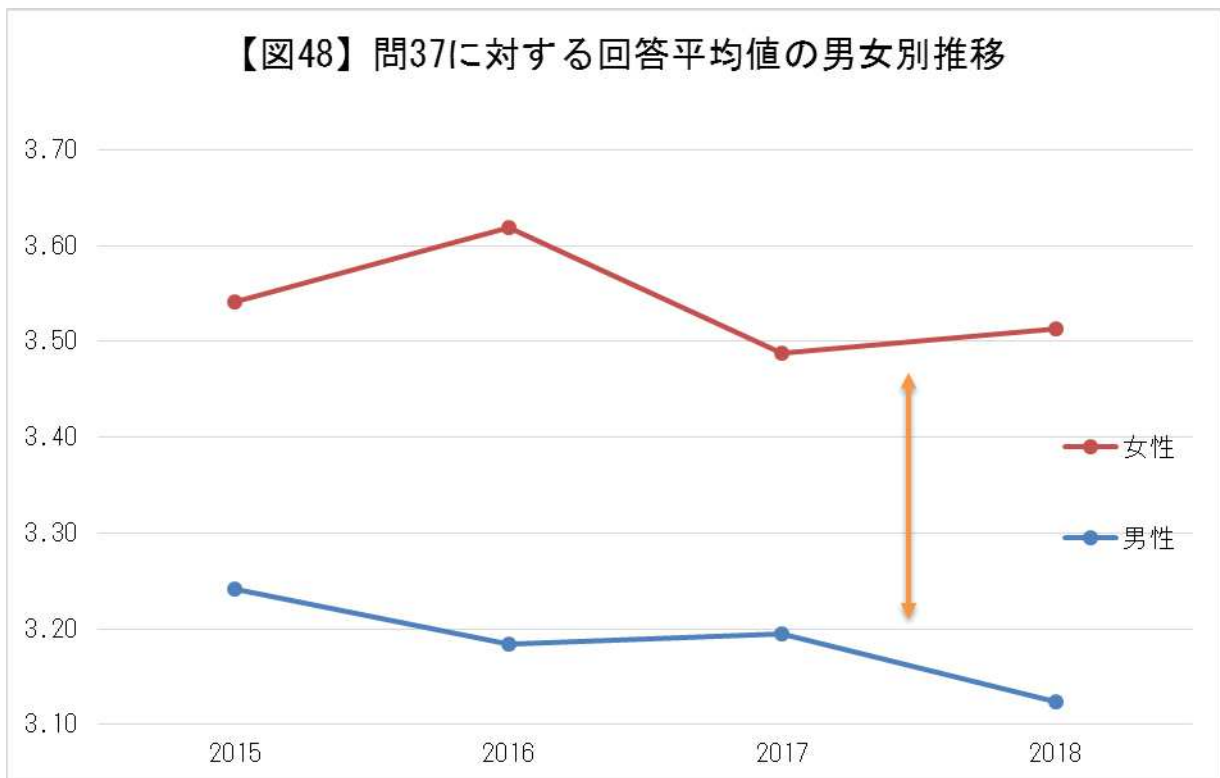
問37に対する回答の平均値の経年変化は【図46】のとおりである。2016年度以降、回答値と年度には負の相関関係がみられ ( $r=-0.04$ ,  $p<0.01$ )、減少している。しかし、中間値である3.0を超えた値域での減少傾向であるため、市民の意識が低下しているとまでは言えないと思われる。



問38に対する回答の平均値の経年変化は【図47】のとおりである。t検定の結果、2015年度と2016年度は統計的に有意な差があり ( $t=2.21$ ,  $p<0.05$ )、増加している。この間に市民の「コウノトリの舞」の認知度を高める要因があったのだろうか。もしあったのであれば、今後の活動の手がかりになるはずである。

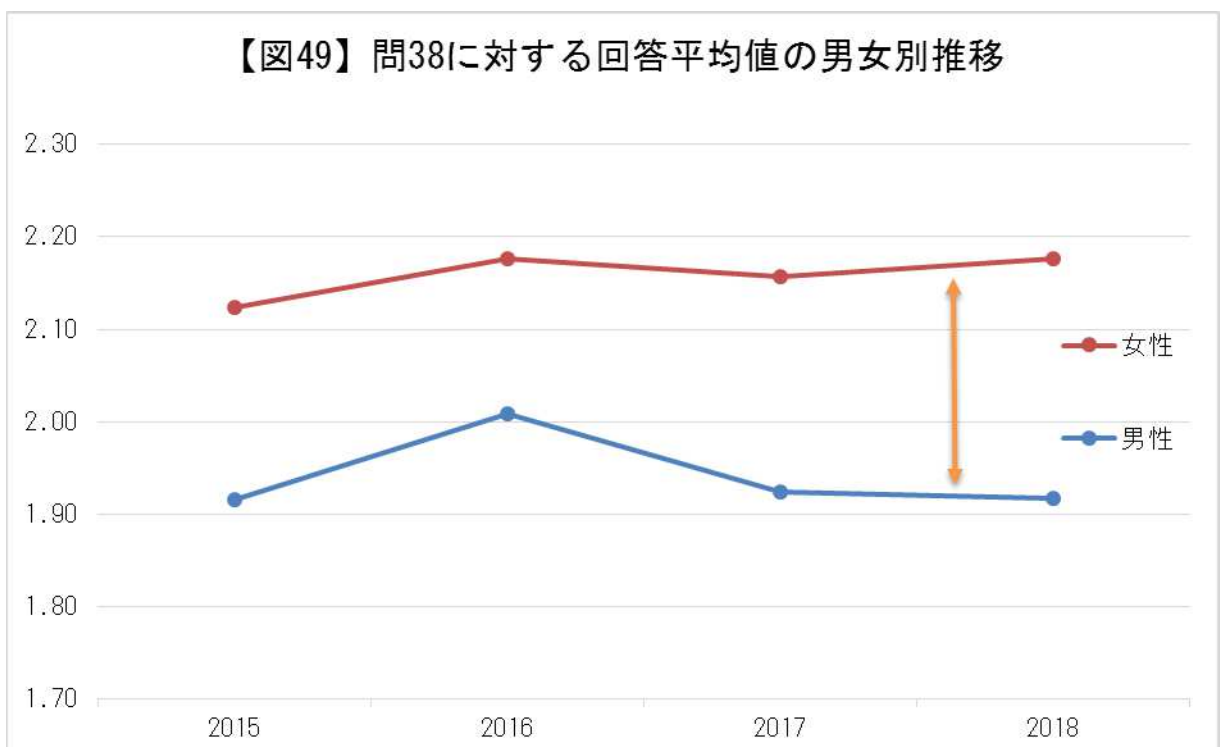


問37に対する回答平均値の男女別の経年変化は【図48】のとおりである。t検定の結果、男女間でモニタリング期間を通じて、統計的に有意な差がみられるため（ $t=5.31\sim 8.27$ 、 $p<0.01$ ）、女性の方が無農薬・減農薬意識が高いことが分かる。

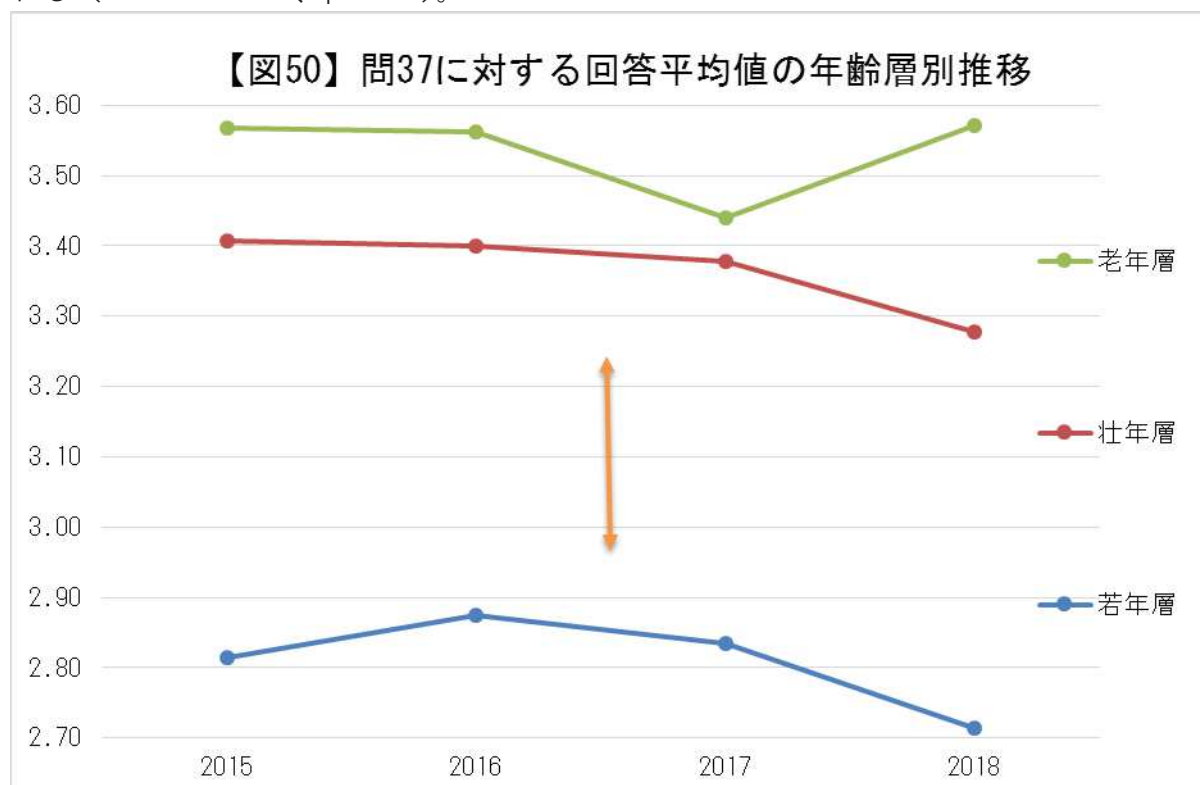


問38に対する回答平均値の男女別の経年変化は【図49】のとおりである。t検定の結果、男女間でモニタリング期間を通じて統計的に有意な差がみられ（ $t=4.77\sim 6.08$ 、 $p<0.01$ ）、女性は男性に比べ「コウノトリの舞」を認知していることが分かる。

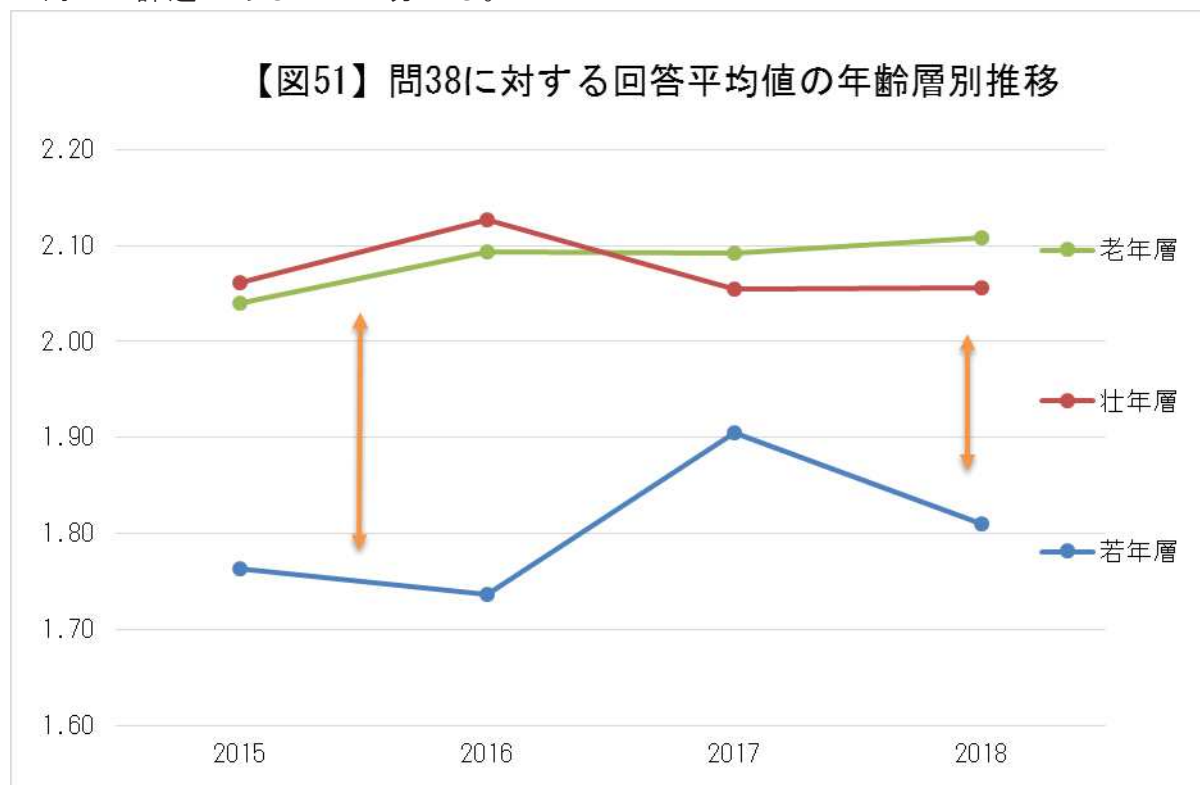
問37及び問38から分かるとおり、この分野では女性の方が男性よりも意識が高いことが分かるため、今後の活動においてこれらの男女差を考慮する必要があるだろう。



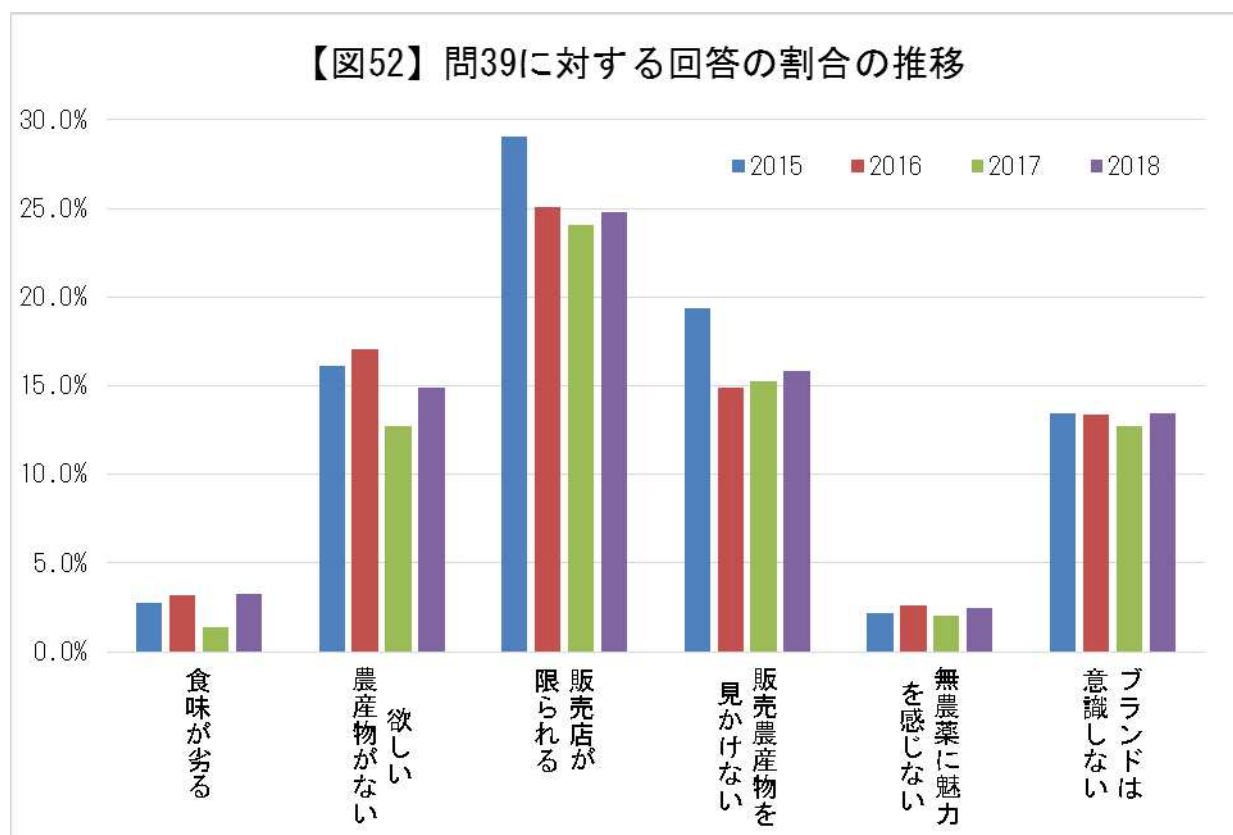
問37に対する回答平均値の年齢層別の経年変化は【図50】のとおりである。t検定の結果、モニタリング期間を通じて、若年層は他の年齢層と統計的に有意な差がみられる（ $t=3.77\sim 6.32$ 、 $p<0.05$ ）。



問38に対する回答平均値の年齢層別の経年変化は【図51】のとおりである。t検定の結果、モニタリング期間を通じて、若年層と他の年齢層との間には統計的に有意な差がみられる（ $t=4.24\sim 2.02$ 、 $p<0.05$ ）。問37及び問38の分析からは、若年層の意識の向上が課題であることが分かる。



問39に対し、各項目を選択した人の回答者全体に占める割合の経年変化を【図52】のとおりである。モニタリング期間を通じて「販売店が限られている」という理由が最も多いことが分かる。行政データと照らし合わせ事実を確認した上で、議論することが必要であろう。

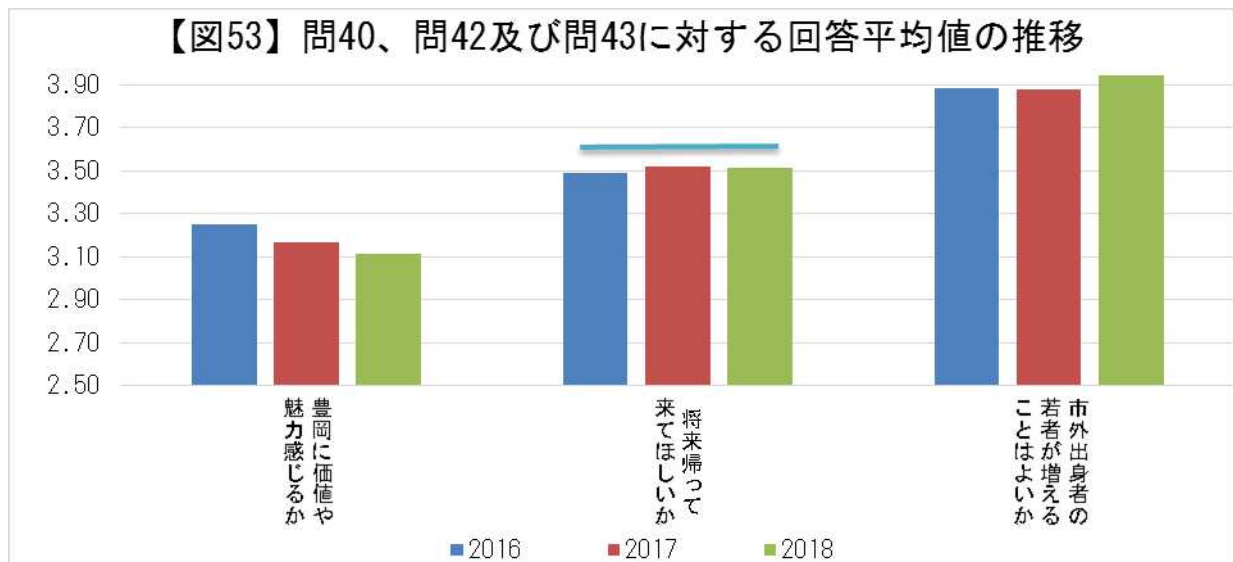


## 2.8 「住みたいと思うまち」(2016年度からモニタリング調査を実施)

問40	あなたは、豊岡市で暮らすことに価値や魅力があると感じて住んでいますか？
問41	あなたにとって、豊岡市で暮らす価値や魅力を感じるものがあるとしたら、それは何ですか？
問42	進学や就職で豊岡市を出ていく子どもたちに対し、将来帰ってきて欲しいと思いますか？
問43	市外出身の若者が増えることは良いことだと思いますか？
問44	(問43で良いと思わないと回答した人に対して) そう思う理由をお聞かせください。

問40、問42及び問43に対する回答平均値の経年変化は【図53】のとおりである。

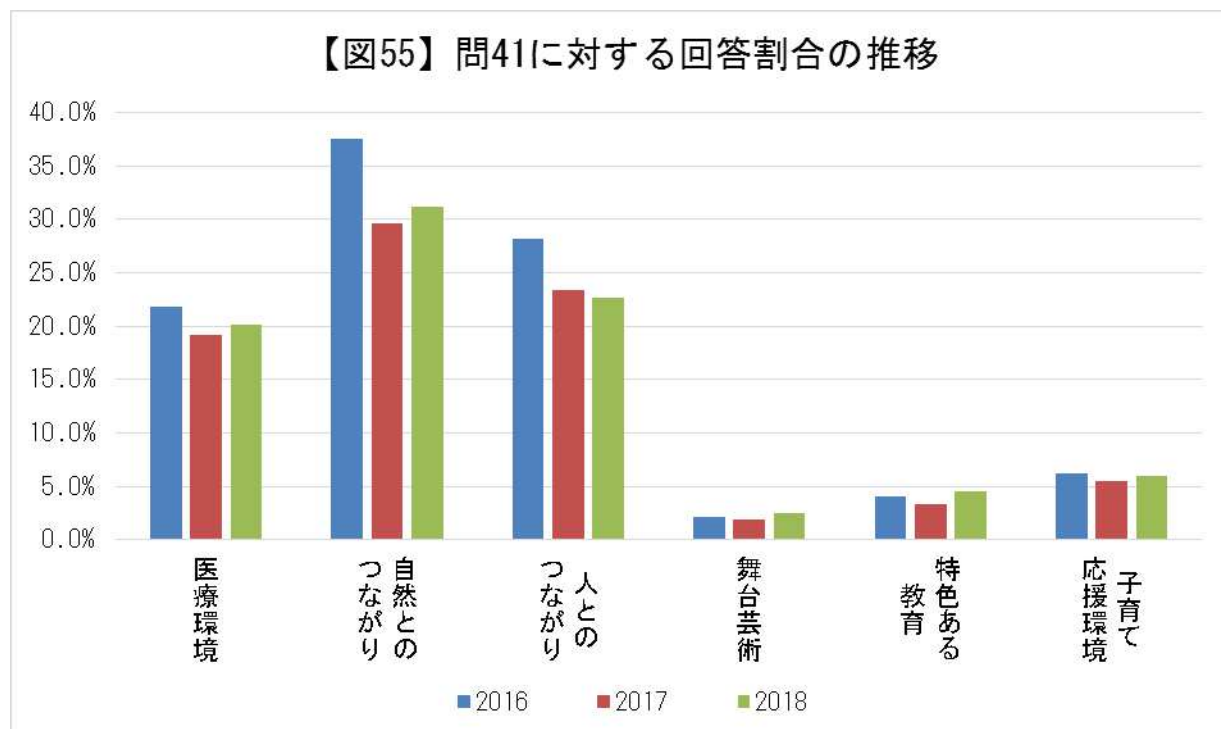
問40は、t検定の結果、2016年度と2017年度は統計的に有意な差があり ( $t=-2.39$ 、 $p<0.05$ )、回答値は減少していると言える。問43は、t検定の結果、2017年度と2018年度は統計的に有意な差があり ( $t=2.24$ 、 $p<0.05$ )、回答値は増加していると言える。



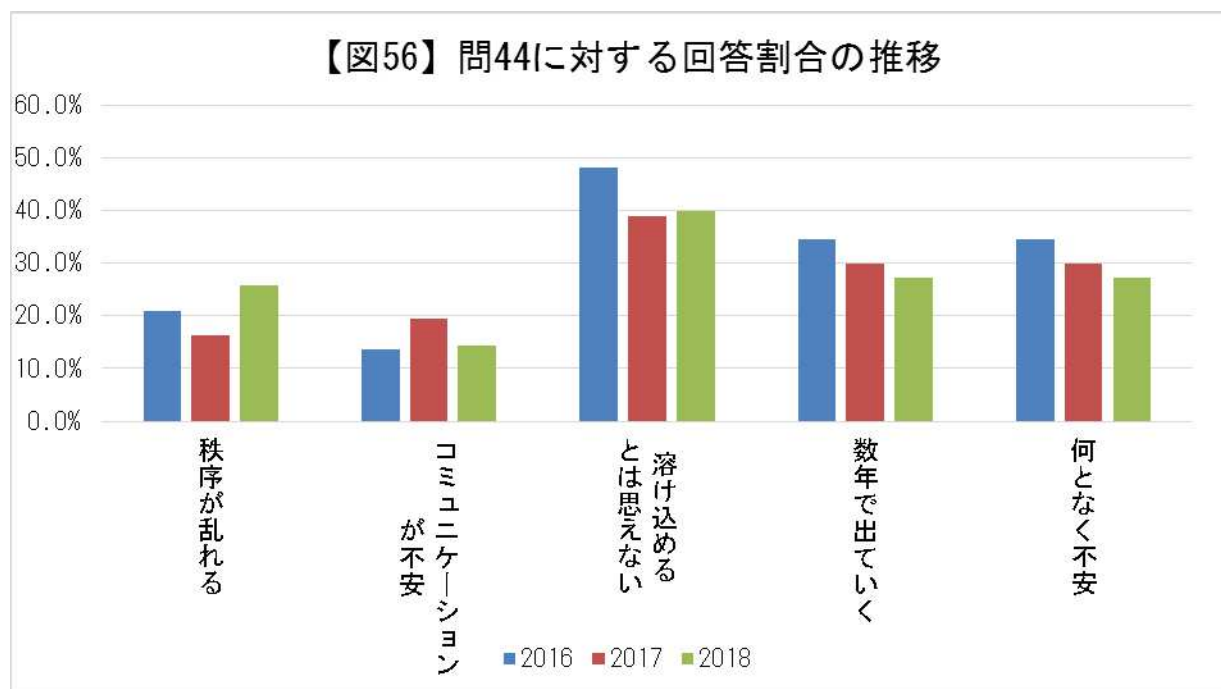
問40に対する回答平均値の年齢層別の経年変化は【図54】のとおりである。t検定の結果、壮年層の回答値が年度間で統計的に有意に減少しており ( $t=2.08\sim 2.76$ 、 $p<0.01$ )、壮年層が全体の回答平均値に影響していることが分かる。また、若年層には統計的に有意な増加ではないものの、増加傾向がみられることが特徴的である。



問41に対し、各項目を選択した人の回答者全体に占める割合の経年変化は【図55】のとおりである。モニタリング期間を通じて「自然とのつながり」、「人とのつながり」及び「整った医療環境」を選択した人の割合が多い。



問44に対して、各項目を選択した人の回答すべき人（問43で「まったく思わない」及び「思わない」を選択した人）に対する割合の経年変化は【図56】のとおりである。モニタリング期間を通じて「地域に溶け込める（馴染む）とは思えないから」、「数年で出て行ってしまうから」及び「何となく不安だから」を選択した人の割合が多い。なお、問43に「まったく思わない」及び「思わない」と回答した人は、モニタリング期間を通じて全体の5%程度である。



### 3 統計基礎用語解説

#### 3.1 t検定

分析対象となる変数がパラメトリック（\*データが、正規分布などの特定の分布にしたがっていると仮定する考え方）である場合に、二つのグループの平均値の差が、「単なる偶然」による差異ではない——即ち「統計的に有意な差」である——ことを確認するための検定方法をt検定という。「統計的に有意な分析結果」であるかどうかは、「有意水準（p）」によって示され、この値が0.05よりも小さい場合、即ち分析の結果が「単なる偶然に過ぎない」確率が5%以下である場合、「統計的に有意な差異がある」と判断する。

統計的に有意な差があるかどうかを判断するために、二つのグループから「t値」と呼ばれる指数と、「自由度（\*degree of Freedom：df）」と呼ばれる値を算出し、これらの値に基づいて有意性の判断を行う。

一般的に、「t値」が十分に大きい場合、二つのグループの平均値の差は「統計的に有意」になる。

#### 3.2 カイ2乗（ $\chi^2$ ）検定

分析対象となる変数がノンパラメトリック（\*データが、正規分布などの特定の分布にしたがっていないことを前提としない考え方）である場合に、二つの変数の分布に違いがあるかどうかを検定する統計手法をカイ2乗検定という。カイ2乗値が十分に大きいと、「二つの変数の間には違いがある」と考えられるが、その判断が統計的に妥当かどうかは、「統計的有意性」によって確認される。t検定と同様に、「統計的に有意な分析結果」であるかどうかは、「有意水準（p）」によって示され、この値が0.05よりも小さい場合、即ち分析の結果が「単なる偶然に過ぎない」確率が5%以下である場合、「統計的に有意な差異がある」と判断する。

統計的に有意差があるかどうかを判断するために、二つのグループのデータから「カイ2乗値」と呼ばれる指数と、「自由度（\*degree of Freedom：df）」と呼ばれる値を算出し、これらの値に基づいて有意性の判断を行う。

一般的に、「カイ2乗値」が十分な値を取る場合、二つの変数の違いは「統計的に有意」になる。

#### 3.3 相関分析

二つの連続変数（身長や体重のような数）の間に、単なる偶然ではない関係——即ち「統計的に有意な関係」——が存在するかどうかを確認するための分析手法を相関分析という。「統計的に有意な分析結果」であるかどうかは、「有意水準（p）」によって示され、この値が0.05よりも小さい場合、即ち分析の結果が「単なる偶然に過ぎない」確率が5%以下である場合、「統計的に有意な分析結果」であると判断する。

また、相関関係の強さは「r」で表わされ、「相関関係が全くない」ことを示す「r=0」から、「非常に強い関係がある」ことを示す「r=1」或は「r=-1」までの値をとる。「r=0」から「r=1」までの正の相関関係は「一方が増えれば他方も増える」という比例的な関係を表し、「r=-1」から「r=0」までの負の相関関係は「一方が増えれば他方が減る」という反比例関係を表す。

通常、「r」が「0.7～1.0」程度であれば「強い相関関係」、「0.4～0.6」程度であれば「中程度の相関関係」、「0.3以下」であれば「弱い相関関係」と判断する。

r値	-1.0… -0.7… -0.6… -0.4… -0.3… 0 … 0.3 … 0.4 … 0.6 … 0.7 … 1.0
関係の強さ	(負)強い～(負)中程度～(負)弱い～無関係～(正)弱い～(正)中程度～(負)強い

## 豊岡市の取組み

豊岡市では、いくつかの政策のうち、次の8つの政策について評価を行い、サービスの改善に結び付けたいと考えています。

- 1 安全・安心のまち
- 2 健康寿命のまち
- 3 環境に優しいまち
- 4 おもてなし観光のまち
- 5 交通の便利なまち
- 6 子育てに優しいまち
- 7 エコ農業のまち
- 8 住みたいと思うまち

この8つの政策については、下記のような独自の取組みを進めています。

### ■「協働」型政策改善

8つの政策の計画・実施に際して、市民の皆さまとの「協働」により、ワークショップなどを通じて、皆さまと一緒に豊岡市の政策改善に取り組んでいます。今後も皆さまの協力をよろしくお願いいたします。

「協働」とは、共通の目標に向かって一緒に行動することです。

「協働ワークショップ」では、参加する市民の皆さまと市で協働して「政策」を考えたり、見直したりする話し合いを行い、市民の皆さまの経験や知識を政策に反映し、共に実現に向けて行動していきます。



ワークショップの様子

### ■改善のためのモニタリング

8つの政策の改善に向けて、定期的に政策の効果と進み具合を見えるための調査（モニタリング）を行っています。今後も毎年このようなアンケートを実施し、これらの政策が順調に進んでいるかどうか、どうすればもっとうまく行くか、皆さまと一緒に考えていきます。

## 豊岡市 政策モニタリング調査

日頃から市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

豊岡市では、現在、8つの政策（次のページ）について、戦略的に成果を出す取組みを進めています。このアンケートは、皆さまのご意見をお聞きすることで、上記の取組みを評価・検討し、今後の取組みを改善するために実施するものです。

なお、このアンケートは、18歳以上の豊岡市民の皆さまの中から3,000人を無作為に抽出して送付しております。アンケートの回答はすべて匿名で処理され、個人に関する情報が公開されることはありません。また、集計結果は、市の政策改善の目的のみに使用し、その他の目的に使用することはありません。

アンケート回答の所要時間は約15分です。お忙しいところ恐縮ですが、このアンケートの趣旨をご理解いただき、回答にご協力いただけますようお願い申し上げます。

【返送締め切り日：平成30年5月11日（金）】

平成30年4月20日  
豊岡市

《お問い合わせ》

豊岡市：政策調整課 行政改革係 担当：谷口、藤田

電話：0796-21-9022

FAX：0796-24-5932

Eメール：seisakuchousei@city.toyooka.lg.jp





1 【安全・安心のまち】について、ご意見を聞かせください。

\*該当する番号に○をつけてください。

【問7】 あなたの区では、災害時、被害を軽減するために「住民同士の助け合い行動ができる」と思えますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

【問8】 あなたは市や区で開催される防災訓練（市民総参加訓練、消火器取扱い訓練、避難訓練、ワークショップなどの図上訓練、救命講習など）に参加していますか？

(1) ほぼ毎回参加する	(2) ときどき参加する	(3) 少なくとも一度は参加したことがある	(4) 参加したことがない	(5) 区で訓練を行っていない
--------------	--------------	-----------------------	---------------	-----------------

【問9】 あなたは災害に備えて次のことを実践していますか？ 次の一覧のうち、実践していることにすべて○をつけてください。

A. 消火器を設置している（最寄りの設置場所を知っている）
B. 住宅用火災警報器を設置している
C. 非常持出し袋を準備している
D. 家具の転倒防止を施している
E. 住宅の前震診断や耐震改修を行っている
F. 最寄りの避難場所を確認している
G. 避難ルートを確認している
H. 有事の際、助けが必要な（または自分を助けてくれる）近所の人の存在を確認している
I. 有事の際の避難行動について、家族と話し合っている（避難場所や連絡の方法など）
J. その他（ ）

0 回答者（あなた）ご自身についてお答えください。

\*該当する番号に○をつけてください。

【問1】 あなたの性別は？

(1) 男性	(2) 女性
--------	--------

【問2】 あなたの年齢は？

(1) 10代	(2) 20代	(3) 30代	(4) 40代	(5) 50代
(6) 60代	(7) 70代	(8) 80代以上		

【問3】 あなたの職業は？

(1) 会社員	(2) 自営業	(3) 公務員	(4) パート・アルバイト	(5) 専業主婦
(6) 学生	(7) NGO・NPO	(8) 無職（年金暮らし含む）	(9) その他（ ）	

【問4】 あなたが住む小学校区は？

(1) 豊岡小学校	(2) 八家小学校	(3) 三江小学校	(4) 田鶴野小学校	(5) 五荘小学校
(6) 新田小学校	(7) 中筋小学校	(8) 奈佐小学校	(9) 港東小学校	(10) 港西小学校
(11) 神美小学校	(12) 城崎小学校	(13) 竹野小学校	(14) 中竹野小学校	(15) 竹野高小学校
(16) 坂中小学校	(17) 八代小学校	(18) 日高小学校	(19) 静修小学校	(20) 三万小学校
(21) 清滝小学校	(22) 弘道小学校	(23) 福住小学校	(24) 寺坂小学校	(25) 坂小学校
(26) 小野小学校	(27) 合橋小学校	(28) 高橋小学校	(29) 資母小学校	

【問5】 あなたの同居家族の構成は？

(1) ひとり暮らし	(2) 夫婦のみ
(3) 夫婦と子ども（未成年）	(4) ひとり親と子ども（未成年）
(5) 二世帯家族（親と子、(3)(4)を除く）	(6) 三世帯家族（親と子と孫）
(7) その他（ ）	

【問6】 あなたの同居家族に小学生以下の子どもがいる場合は、その人数を教えてください。

小学生以下の子ども： \_\_\_\_\_ 人

【問14】 あなたは一緒に健康づくりをする仲間がいますか？

(1) たくさんいる	(2) まあまあいる	(3) どちらともいえない	(4) あまりいない	(5) まったくいない
------------	------------	---------------	------------	-------------

【問15】 運動ができる公園や健康増進施設など、身近なところで健康づくりのできる環境が整っていると思えますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

2 【健康長寿のまち】 について、ご意見をお聞かせください。

\*該当する番号に○をつけてください。

【問10】 あなたは現在、自分が健康だと思いますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 思う	(4) とても思う
--------------	----------	--------	-----------

【問11】 あなたはご自身の健康のために現在どのようなことを心がけていますか？  
次の一覧のうち、心がけていることにすべて○をつけてください。

A. 食生活に気をつける
B. 虫歯や歯周病にならないよう歯の健康に気をつける
C. 睡眠や休養を十分にとる
D. 適正体重を認識し体重をコントロールしている
E. 定期的に健康診断や健康診断を受診する
F. 運動やスポーツなど積極的に体を動かす
G. 健康についての知識や情報を得る
H. 趣味や旅行など生きがい（楽しみ）を持つ
I. ボランティア活動や地域や地域の活動に参加する
J. 何もしていない
K. その他（ ）

【問12】 あなたは健康維持・増進のために運動（1日30分以上）をしていますか？

(1) ほぼ毎日している	(2) 週に3日以上している	(3) 週に2日している	(4) 週に1日以下	(5) していない
--------------	----------------	--------------	------------	-----------

(6) を選択した方は、【問14】へ。  
【問13】 【問12】の回答で(1)～(4)を選択した方にお尋ねします。  
その運動はどのくらい継続されていますか？

(1) 1年以上	(2) 6か月～1年未満	(3) 3か月～6か月未満	(4) 3か月未満
----------	--------------	---------------	-----------

\*次は、【問14】に進んでください。

4 【おもてなし観光のまち】 について、ご意見をお聞かせください。

\*該当する番号に○をつけてください。

【問21】 豊岡市は、国内外から人が集まる、賑わい活気にあふれたまちだと思いますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

【問22】 あなたの地域（合併前の旧市町）にもっと観光客が来てほしいと思いますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

【問23】 市外の人に、豊岡市を、訪れる価値のあるまちとして勧めたいと思いますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

【問24】 現在、仕事あるいはボランティアとして、豊岡市を訪れる観光客への「おもてなし」活動に関わっていますか？

(1) はい	(2) いいえ
--------	---------

【問25】 【問24】で(2)「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

機会があれば、観光ボランティア・ガイドなどとして、豊岡市の「おもてなし」に関わりたいと思いますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

\*次は、【問26】へ進んでください。

【問26】 豊岡市の魅力的な観光資源は何ですか？

次の一覧から、魅力的だと思う観光資源を3つ選んで[ ]に記号を書いてください。

<回答記載欄>

- ・ 最も魅力的 : [ \_\_\_\_\_ ]
- ・ 2番目に魅力的 : [ \_\_\_\_\_ ]
- ・ 3番目に魅力的 : [ \_\_\_\_\_ ]

<選択肢一覧>

A. 城崎温泉	B. 城下町出石	C. コウノトリ	D. 神崎高原	E. 竹野海岸
F. 但馬のチューリップ	G. 自然・景観	H. 松葉ガニ	I. 但馬牛	J. 山陰海岸ジオパーク
K. その他 ( _____ )				

次のページ >>>

3 【環境に優しいまち】 について、ご意見をお聞かせください。

\*該当する番号に○をつけてください。

【問16】 豊岡市は、環境に優しいまちだと思いますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

【問17】 豊岡市は、近年、経済的に豊かになってきていると思いますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

【問18】 日常生活で省エネを意識していますか？

(1) まったく思っていない	(2) していない	(3) 分からない	(4) している	(5) とてもしている
----------------	-----------	-----------	----------	-------------

【問19】 日常生活で職場に配慮した商品を購入していますか？

(1) まったく思っていない	(2) していない	(3) 分からない	(4) している	(5) とてもしている
----------------	-----------	-----------	----------	-------------

【問20】 豊岡市の市民や事業者の皆さまによる環境を良くする取組みが、豊岡市の経済にもプラスになると思いますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

次のページ >>>

【問31】 ビジネス・レジャー等ときの主な移動手段についてお聞きします。

注) 複数の移動手段を同じくらい利用している場合でも、最もよく使っているものを1つに○をつけてください。

(1) 大阪・神戸方面へ出かけるとき、主にどの移動手段を利用しますか？

(1) 鉄道	(2) バス	(3) 自動車 (マイカーなど)	(4) 飛行機
(5) その他 ( )	(6) 大阪・神戸方面に出かけることが無い		

(2) 東京方面へ出かけるとき、主にどの移動手段を利用しますか？

(1) 鉄道	(2) バス	(3) 自動車 (マイカーなど)	(4) 飛行機
(5) その他 ( )	(6) 東京方面に出かけることが無い		

5 【交通の便利なまち】 について、ご意見をお聞かせください。

\*該当する番号に○をつけてください。

【問27】 豊岡市の公共交通は便利だと思えますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分らない	(4) 思ふ	(5) とても思ふ
--------------	----------	----------	--------	-----------

【問28】 日常生活で、公共交通を使うよう心がけていますか？

(1) まったくしていない	(2) していない	(3) どちらとも言えない	(4) している	(5) 大変している
---------------	-----------	---------------	----------	------------

【問29】 あなたが、公共交通を使う際の主な目的は何ですか？  
次の一覧のうち、使う際の主な目的を1つ選んで○をつけてください。

A. 通勤・通学
B. 通院
C. 銀行・郵便局・市役所などの用事
D. 日常的な食料品や生活雑貨などの買い物
E. 娯楽 ( レジャー、飲食など )
F. 業務・仕事 ( 出張、顧客訪問など勤務先以外の仕事 )
G. その他 ( )

【問30】 あなたの地域にはどのような公共交通が必要だと思いますか？  
次の一覧から、必要だと思う公共交通を3つ選んで[ ]に記号を書いてください。

<回答欄>

・ 最も必要	:[ ]
・ 2番目に必要	:[ ]
・ 3番目に必要	:[ ]

<選択肢欄>

A. バス	B. 特急バス	C. タクシー	D. 乗合タクシー	E. 鉄道
F. 飛行機	G. その他 ( )			

7 【エコ農業のまち】 について、ご意見をお聞かせください。

\*該当する番号に○をつけてください。

【問37】 食品を購入する時など、その食品や材料が無農薬・減農薬かどうかを意識しますか？

(1) まったく意識しない	(2) 意識しない	(3) どちらとも言いえない	(4) 意識する	(5) とても意識する
---------------	-----------	----------------	----------	-------------

【問38】 市では、市内で生産した農産物で、農薬（無農薬・減農薬）などの基準を満たしたものを「コウノトリの舞」に認定しています。



あなたは、「コウノトリの舞」という農産物ブランドをご存じですか？

▲認定ロゴマーク

(1) まったく知らない	(2) 名前を知っているが購入したことはない	(3) 知っており何度も購入したことがある	(4) 知っており継続的に購入している
--------------	------------------------	-----------------------	---------------------

(1) (4) を選択した方は、【問40】へ。

【問39】 【問38】で (2)、(3) を選択した方にお尋ねします。

購入（又は継続的に購入）しない理由をお聞かせください。次の一覧から当てはまるものに基づいて○をつけてください。

A. 価格が高いから
B. 食味が劣ると思うから
C. 欲しい農産物がない（認定品目が少ない）から
D. 販売している店が限られているから
E. 販売されている農産物をほとんど買わないから
F. 無農薬・減農薬に魅力を感じないから
G. 買い物のとき、ブランド（生産地や生産方法など）は意識しないから
H. その他（ ）

\*次は、【問40】へ進んでください

次のページ >>>

豊岡市 政策モニタリング調査 - 10

6 【子育てに楽しいまち】 について、ご意見をお聞かせください。

\*該当する番号に○をつけてください。

【問32】 豊岡市は子育て世帯が住みやすいまちだと思いますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

【問33】 現在、仕事またはボランティアとして、子育てを支援したり、地域の子ども会イベントなどの活動に関わったりしていますか？

(1) はい	(2) いいえ
--------	---------

【問34】 【問33】で (2)「いいえ」を選択した方にお尋ねします。  
機会があれば、これらの活動に関わってみようと思いませんか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

\*次は、【問35】へ進んでください。

【問35】 あなた自身、あるいはあなたの周囲で子育てをしている方は、市の子育て支援サービスを活用していますか？（\*現在子育て中の方はご自身のことについて、そうでない方は周りの方の様子についてお答えください。）

(1) まったく活用しない	(2) 活用している	(3) 分からない	(4) 活用している	(5) 頻繁に活用している
---------------	------------	-----------	------------	---------------

【問36】 あなた自身、あるいはあなたの周囲で子育てをしている方は、子育てを楽しんでいますか？（\*現在子育て中の方はご自身のことについて、そうでない方は周りの方の様子についてお答えください。）

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

次のページ >>>

豊岡市 政策モニタリング調査 - 9

8 【住みたいと思うまち】について、ご意見をお聞かせください。

\*該当する番号、記号に○をつけてください。

【問40】 あなたは、豊岡市で暮らすことに価値や魅力があると感じて住んでいますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

【問41】 【問40】で(4)、(5)を選択した方にお尋ねします。  
あなたにとって、豊岡市で暮らす価値や魅力を感じるものがあるとしたら、それは何ですか？  
次の一覧の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。

- A. 整った医療機関（ドクターヘリ・ドクターカーなど充実した救急医療、安心して子育てできる産科産院）
- B. 自然とのつながり
- C. 人とのつながり
- D. 一流の舞台芸術に触れる機会
- E. 特色ある教育（こども野生復興、コウノトリをシンボルとした環境教育、適切な英語教育、演劇手法を取り入れたコミュニケーション能力育成、ふるさとの歴史を学ぶ教育）
- F. 充実した子育て支援策
- G. 子育てを周りの人や地域が応援してくれる環境
- H. その他（ ）

\*次は、【問42】へ進んでください

【問42】 進学や就職で豊岡市を出ていく子どもたちに対し、帰来帰って来て欲しいと思いますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

【問43】 豊岡市では若者が減り続けていることから、人口減少対策として若者（概ね20～30歳代）の転入に力を入れています。市外出身の若者が増えることは良いことだと思いますか？

(1) まったく思わない	(2) 思わない	(3) 分からない	(4) 思う	(5) とても思う
--------------	----------	-----------	--------	-----------

【問44】 【問43】で(1)、(2)を選択した方にお尋ねします。  
その理由をお聞かせください。次の一覧から、当てはまるものすべてに○をつけてください。

- A. 若者が増えると地域の経済が活発になるから
- B. 若者とコミュニケーションが取れるから不安だから
- C. 若者が地域に溶け込める（馴染む）とは思えないから
- D. 若者は数年で出て行ってしまおうと思うから
- E. 若者がいると何となく不安だから
- F. その他（ ）



アンケートは以上です。  
ご協力、ありがとうございました。

【問45】 【問44】で(1)、(2)を選択した方にお尋ねします。  
その理由をお聞かせください。次の一覧から、当てはまるものすべてに○をつけてください。

- A. 若者が増えると地域の経済が活発になるから
- B. 若者とコミュニケーションが取れるから不安だから
- C. 若者が地域に溶け込める（馴染む）とは思えないから
- D. 若者は数年で出て行ってしまおうと思うから
- E. 若者がいると何となく不安だから
- F. その他（ ）

